

飯 能 市 郷 土 館 館 報

郷土館のプロフィール

Profile 2010

活動報告書

第8号

平成22年度



飯能市郷土館

あいさつ

飯能市郷土館館報(活動報告書)第8号をお届けします。

この館報は、当館の活動をその内容だけでなく、事業評価を盛り込みながら記録としてまとめたもので、自発的な情報公開を目的として発行するものです。

第5号までは3年毎に刊行してまいりましたが、活動成果をスピーディに公表し、1年間の事業内容を振り返り、次年度の事業展開に役立てるなど、積極的な活用をするために、第6号からは毎年発行しています。今回収録したのは、平成22年度の事業です。

平成22年度は収蔵絵画四人展「飯能ゆかりの画家たち」の展示から始まりました。当館には、様々な経緯から飯能出身の画家の絵画を多数収蔵しており、これまでも収蔵絵画の展示を何度か実施してきましたが、絵画鑑賞の機会を増やしてほしいとの市民からの要望が多く、ここであらためて展示会を開催したものです。当館は歴史系博物館であるため、施設、設備やスタッフの面から美術品を展示する環境に必ずしも適しているとは言い難く、今後これら収蔵絵画をどう活用するかが課題であることをあらためて認識しました。

秋に開催した特別展「大地に刻まれた飯能の歴史」ではこの30年間の発掘調査の成果を展示しました。昨年度に引き続き考古学を対象とした展示でしたが、遺跡の調査から飯能の歴史がどこまでわかったかを具体的に示すことができ、来館者にも好評でした。

市民学芸員制度は当館の特徴的な市民との協働事業の一つですが、参加人数の減少等が課題となってきたため、今年度、第Ⅴ期とⅥ期の養成講座を開催しました。第Ⅴ期はこれまでの学校と博物館の連携を担う「博学連携型」の市民学芸員養成ですが、第Ⅵ期は当館収蔵の古文書整理を担う「古文書整理型」の市民学芸員を初めて養成しました。第Ⅴ期では11人、第Ⅵ期では15人の市民学芸員が新たに登録され、市民学芸員の活動もますます活発になると期待しています。

調査・研究事業では来年度予定している特別展「飯能戦争」(仮称)のための調査を比較的早い時期から開始しました。調査研究に割ける時間は限られていますが、このように、調査期間を長く設定することで内容の濃い特別展につなげられると考えております。

また、平成17年に合併した名栗村から引き継いだ名栗村史編さん事業は昨年度完了しましたが、もう一つの課題である名栗村で収集していた民俗資料の保存整理、活用について今年度から着手しました。こちらは数年のうちに活用まで軌道にのせることを目指しています。

当館では市民とともに事業をすすめ、市民が集い情報を交換する場に、また、地域の情報が集まり飯能ならではのものを発信する場になるよう、努力して参ります。

市民の皆様には今後とも、当館の活動へのご参加と、ご支援ご協力を切にお願いいたします。

平成24年3月

飯能市郷土館
館長 曾根原 裕明

目 次

あいさつ	1
目 次	2
沿 革	3

第1章 施設

建物平面図	6
面積表	7
常設展示の概要	8

第2章 事業

事業概要・事業一覧	10
展示	
（収藏品展・特別展）	11
（その他の展示）	16
講座・学習会	19
交流	23
博学連携	31
資料・施設の利用	35
レファレンスの対応	40
講師派遣	41
収集	42
整理・保存	43
調査・研究	48
刊行物	50
情報発信	51
郷土館協議会	53
博物館実習	54

第3章 各種データ

利用者数	56
歳出予算	57
図書資料寄贈機関	58
飯能市郷土館条例・施行規則	60

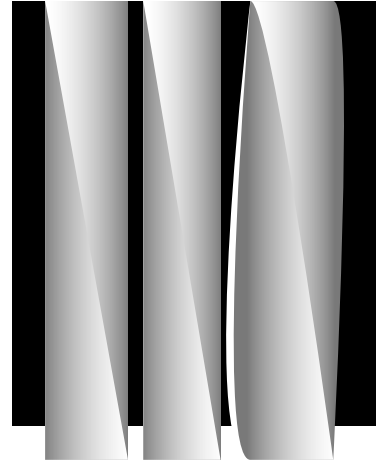
職員	62
利用案内	62

表紙：「飯能市郷土館」ペン・水彩 1990年 小島喜八郎画

沿革

昭和46年3月	「飯能市郷土館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」が公布され、(株)丸広百貨店より寄付された1千200万円が予算化される。
昭和50年4月	飯能市総合振興計画の基本構想に郷土館建設がうたわれる。
昭和61年3月	(株)丸広百貨店より寄付された観光施設整備基金約2億1千万円を郷土館建設基金に繰り入れる。
昭和61年6月	飯能市文化財保護審議委員会へ、郷土館建設基本構想・基本計画策定について諮問する。
昭和62年3月	飯能市文化財保護審議委員会から基本構想・基本計画が答申される。
昭和62年7月	(株)平安設計による建築設計を開始する。
昭和62年10月	(株)タイムアートデザインによる展示基本設計を開始する。
昭和63年3月	市川・前久保建設共同企業体による建築工事に着工する。
平成元年4月	社会教育課内に郷土館準備係(係長1、係員1)が配置される。
平成元年6月	(株)タイムアートデザインによる展示工事に着工する。
平成元年12月	飯能市郷土館条例が制定される。
平成2年4月	飯能市郷土館友の会が結成される。
平成2年4月	飯能市郷土館が開館する。 (常勤職員は館長1、学芸員1、主事補1)
平成2年4月	開館記念特別展「飯能の国指定重要文化財」「わたしの宝物―思い出に残る品々―」開催。
平成2年8月	特別展「戦時中の暮らし」開催。
平成2年8月	夏休み子ども歴史教室開催。(以後、毎年開催)
平成2年10月	特別展「飯能文化萌ゆ」開催。
平成2年11月	古文書講座「むかしの飯能を知ろう」開催。この講座の受講生を中心に「古文書同好会」が結成され自主活動を続ける。
平成3年2月	特別展「ひなまつり」開催。
平成3年4月	特別展「能仁寺と黒田氏」開催。
平成3年7月	友の会主催の郷土館ギャラリー「飯能の陶芸家たち」開催。
平成3年10月	特別展「絹は語る」開催。
平成4年4月	特別展「写真にみる幕末・明治」開催。
平成4年8月	埋蔵文化財出土品展「掘り起こせ！古代からのメッセージ」を開催。(生涯学習課と共催。平成6年までは毎年開催、その後は隔年で開催)
平成4年10月	特別展「絵図からの伝言」開催。この特別展より企画委員会を組織し、展示構成を検討することとなる。
平成5年1月	友の会主催による「まゆ玉づくり」開催。以後、毎年開催する。
平成5年4月	特別展「商―飯能の広告展―」開催。
平成5年6月	開館以来の入館者数が10万人を突破。
平成5年10月	特別展「碑―連帯のエネルギー―」開催。
平成6年3月	『飯能の昭和史年表』発行。
平成6年4月	開館5周年記念特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」開催。この展示で、初めて特別展の図録をつくる。
平成6年10月	特別展「ジャパンマイセン―瀬戸の磁器人形―」開催。この展示で、1日平均入館者数最多の205.6人を記録する。(開館記念特別展は除く)
平成7年4月	特別展「いろどりとにぎわいのとき―飯能の民俗芸能・屋台囃子と獅子舞―」開催。
平成7年7月	常勤職員が4人(館長、学芸員2、主事補1)となる。
平成7年10月	特別展「飯能の村医者―幕末・明治の医療―」開催。
平成8年4月	特別展「猫・ねずみ―絵ぞうし展―」開催。
平成8年5月	開館以来の入館者数が20万人を突破。
平成8年8月	常設展示等企画委員会発足。(任期は平成10年3月まで)
平成8年10月	特別展「飯能の刀匠―小沢正壽を中心として―」開催。会期中に展示図録が完売する。
平成9年3月	『飯能市郷土館館報』第1号発行。

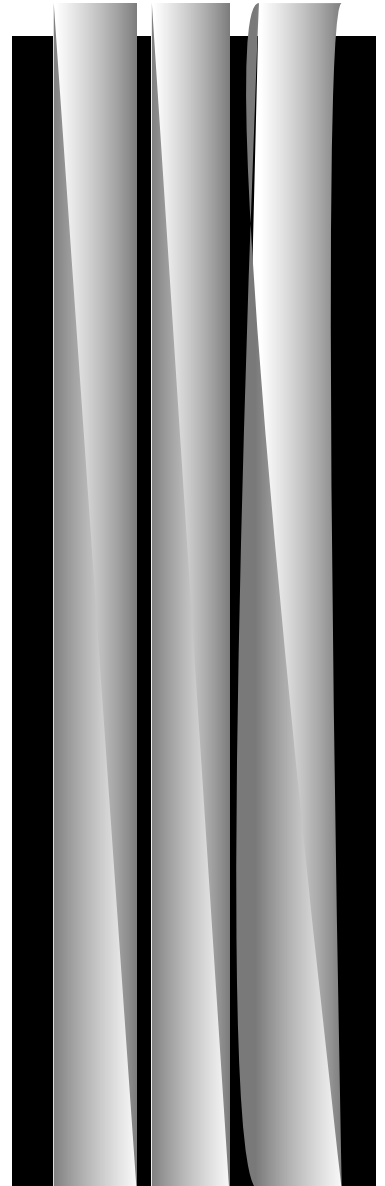
平成9年3月 特別展「明治のハイカラ美人—手彩色絵葉書—」開催。
 平成9年10月 特別展「祈りのメッセージ—飯能の絵馬—」開催。
 平成10年4月 特別展「高麗の里の独楽展—昔遊びのすすめ—」開催。
 平成10年4月 「やさしい古文書講座」開催。この講座の受講生を中心に「古文書勉強会」が結成され自主活動
 を続ける。
 平成10年8月 恒例の「夏休み子ども歴史教室」を「夏休み親子歴史教室」と改称して実施。
 平成10年9月 「中学生社会科研究展」開催。(以後毎年開催)
 平成10年10月 特別展「時の記憶—飯能の写真展—」開催。
 平成10年11月 市民との交流事業「定点撮影プロジェクト」開始。
 平成10年12月 開館以来の入館者数が30万人を突破。
 平成11年3月 収藏品展開催。(これ以降、毎年春に収藏品展を開催することとする)
 平成11年10月 開館10周年記念特別展「わたしの宝物展」開催。
 平成12年1月 第Ⅰ期市民学芸員養成講座開始。
 平成12年2月 特別展「飯能のスポーツ史」開催。
平成12年3月 博物館法に基づく登録博物館となる。
 平成12年10月 特別展「飯能、戦後の暮らし」開催。
 平成13年2月 第Ⅱ期市民学芸員養成講座開始。
 平成13年3月 『研究紀要』第1号発行。
 平成13年5月 「郷土館だより」創刊号発行。
 平成13年9月 これまでの「中学生社会科研究展」に小学生も対象に加え、「小中学校社会科研究展」として開催。
 平成13年10月 特別展「黎明のとき—飯能焼・原窯からの発信—」開催。この特別展より夜間開館を実施する。
 平成14年10月 特別展「うちおり—織物に込められた想い—」開催。
 平成14年10月 郷土館ホームページをインターネット上に公開開始する。
 平成15年3月 『収蔵資料目録』発行。
 平成15年7月 市制施行50周年記念特別事業として特別展「写真でたどる飯能市の50年」開催。
 平成15年8月 開館以来の入館者数が40万人を突破。
 平成15年10月 特別展「中山氏と飯能・高萩一時と街を結んだ武士の系譜—」開催。
 平成16年2月 第Ⅲ期市民学芸員養成講座開始。
 平成16年10月 入間川4市1村合同企画展「筏師が見た入間川—その流域の今昔—」開催。
 平成17年1月 名栗村との合併にともない、名栗村史編さん事業を郷土館が引き継ぐ。
 平成17年1月 常勤職員が5人(館長、学芸員2、主査2)となる。
 平成17年10月 特別展「飯能の水力発電—吾野名栗に電気がひけた日—」開催。
平成19年3月 郷土館所蔵の「飯能の西川材関係用具」が埼玉県有形民俗文化財に指定される。
 平成19年4月 常勤職員5人のうち館長以外の職員が全て学芸員となる。
 平成19年4月 開館以来の入館者が50万人を突破する。
 平成19年4月 郷土館ホームページを全面的に更新する。
 平成19年4月 第Ⅳ期市民学芸員養成講座開始。
 平成19年6月 市民のコレクションを展示する第1回「マイ・コレ。」(マイ・コレクション展)を開催する。
 (以後、毎年2回開催)
 平成19年10月 特別展「西川林業の道具—森林文化の遺産—」開催。
 平成20年3月 『名栗の民俗』(下巻)、『名栗の歴史』(上巻)刊行。
 平成20年4月 常勤職員が4人(館長、学芸員3)となる。
 平成20年10月 特別展「名栗の歴史—森林とともに歩んだ文化を探る—」開催。
 平成21年10月 特別展「縄文時代の飯能—原始の森林に生きた人々—」開催。
 平成22年3月 『名栗の歴史(下)』を刊行し、名栗村史編さん事業が終了する。
 平成22年5月 第Ⅴ期・第Ⅵ期市民学芸員養成講座開始。
 平成22年10月 飯能市埋蔵文化財保護行政30周年記念特別展「大地に刻まれた飯能の歴史—30年の発掘調査
 成果から—」開催。
 平成22年11月 開館以来の入場者数が60万人を突破する。



第 1 章

…… Chapter 1 ……

【 施 設 】



建物平面図

< 1階 >

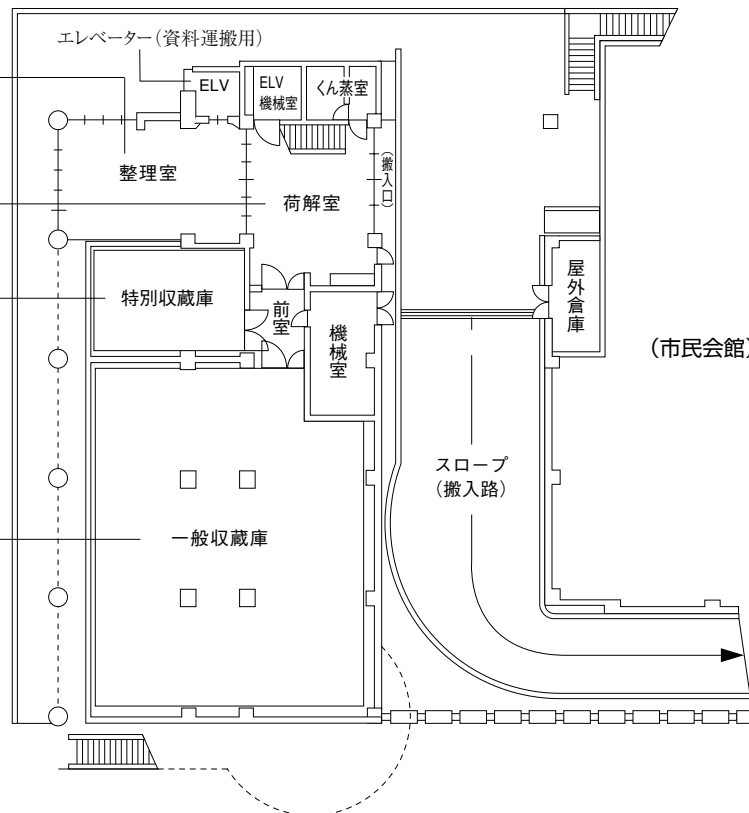
収蔵資料の台帳やカードを作成しその情報を整理する部屋。

搬入された資料の梱包を解く部屋。年1回行われる資料の被覆燻蒸もここで行われる。

古文書・典籍など約40,000点のほか貴重な資料が保管されている。

民具約4,950点、絵画などを収蔵している。

(飯能河原)



< 2階 >

※< R階 > 階段をあがると展望台があり、龍涯山、前ヶ貫丘陵など遠くまで見渡すことができる。

(駐車場)

主に資料の調査・研究を行う部屋。近隣市町村で刊行した図書類もある。

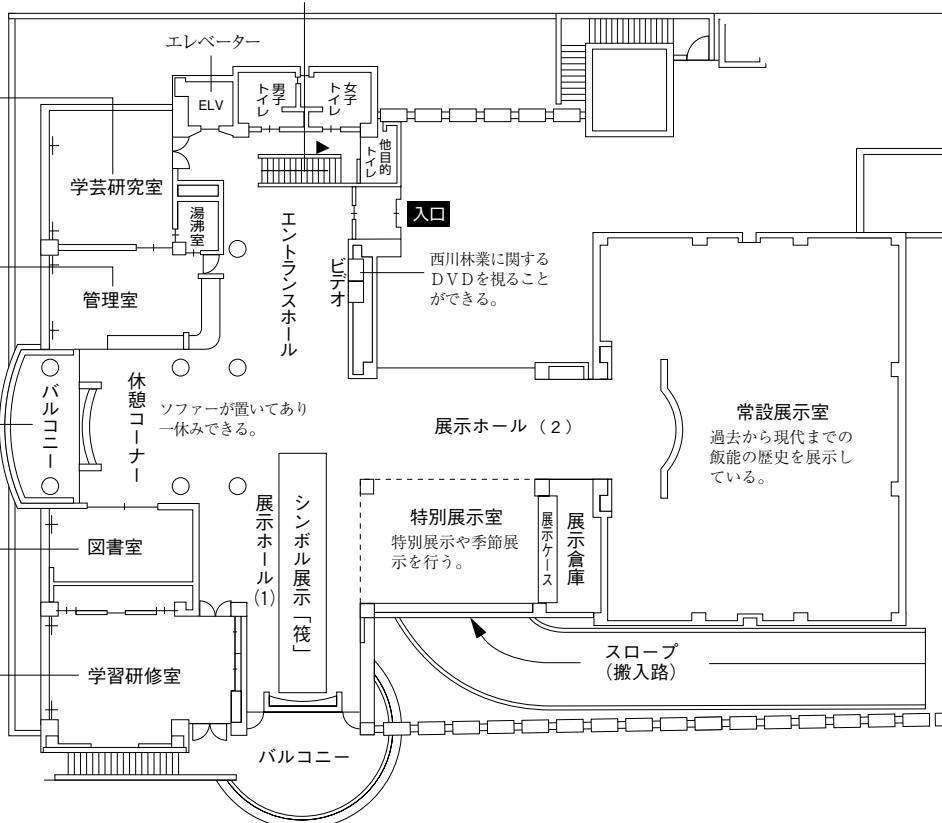
職員がいる部屋。館内の照明や空調などの管理及び刊行物の販売、来館者の質問や電話によるレファレンスに対応する。

ここからの眺めは最高！飯能河原が一望できる。

飯能の歴史や文化、博物館に関連する図書が配架されている。

講座や学習会を実施するほか、定点撮影プロジェクトや市民学芸員の会合を行う。

(飯能河原)



(市民会館)

面積表

〈各階床面積一覧表〉

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積
1 階	497.458	休憩コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	多目的トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
2 階	959.774	エレベーター	7.500
常設展示室	273.965	R 階	40.040
特別展示室	59.850	階段	15.846
展示倉庫	20.675	階段ホール	15.944
展示ホール (1)	139.750	エレベーター	8.250
展示ホール (2)	88.128		
エントランスホール	103.131	合 計	1,497.272

〈用途別面積一覧表〉

用途	内 訳	面積 (㎡)	割合 (%)
教育普及	展示 (常設展示室・特別展示室・展示ホール)	561.693	37.5
	その他 (学習研修室)	62.779	4.2
収集・保存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調査・研究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管 理	(管理室)	38.558	2.6
そ の 他		377.72	25.2

敷地面積 3,626.12㎡ 建築面積 1,165.999㎡

施設修繕

- ・浄化槽ブローワー修繕(分解修理、部品取替) (8月)
- ・空調機修繕(荷解室・常設展示室空調機クランクケースヒーターの交換) (8月)
- ・玄関ホール大型テレビデジタル放送受信改修 (11月)
- ・館内不良照明器具修繕(展示ホール1の蛍光灯2台安定機交換) (1月)
- ・館内不良照明器具修繕(展示ホール1の蛍光灯1台安定機交換) (3月)

常設展示の概要

常設展示には、展示ホール(1)のシンボル展示「筏」と、常設展示室の展示がある。

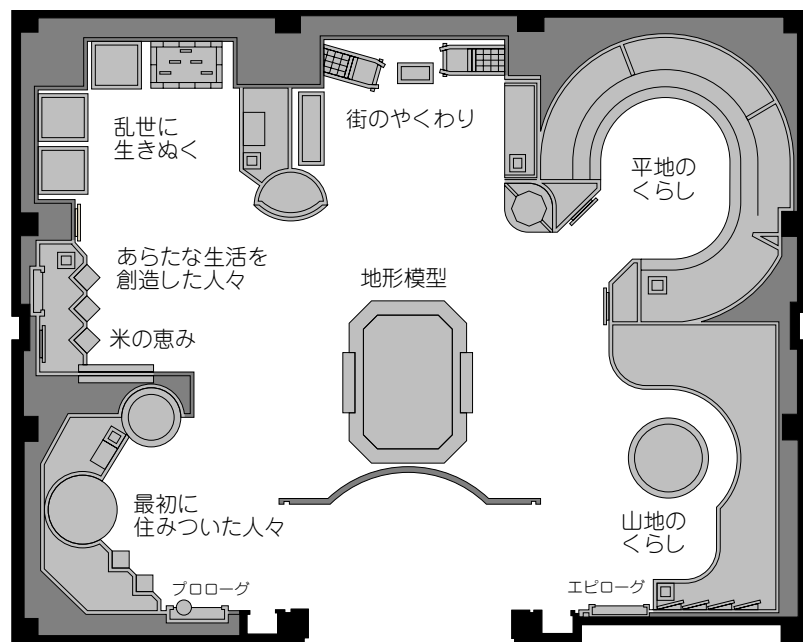
常設展示室は、下図のように地形模型を中心とした9つのテーマから構成され、飯能の歴史が旧石器時代から現代まで時代を追ってわかるようになっている。

なお、常設展示の展示替えについては、平成8・9年度に学識経験者による常設展示等企画委員会を立ち上げ、開館10周年にあたる平成11年度の実施を目指して運営も含めた検討を行ったことがあった。この委員会からは報告書が出されたが、財政難などの理由からそれを実現することができず現在に至っている。

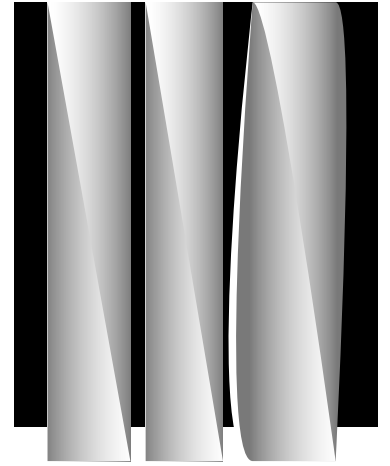
資料保存の観点から、あるいは研究成果を反映させるために、部分的な展示替えはこれまでも行ってきたところであるが、開館後20年以上経過しており、全面的な展示替えが必要な時期となっている。

平成22年度は展示資料の変更はなかった。

なお、常設展示での理解を深めるために「常設展示解説シート」を順次作成し、展示室内に配置してきた。これまで作成したシートは「中世武人の館跡」、「武州一揆」、「飯能戦争」、「飯能焼」、「筏流し」、「西川林業」の6種類である。しかし、これらのシートの体裁はまちまちであったため、統一した書式を定め、シートの在庫が無くなったものから順次変更することとした。平成22年度は「西川林業」のシートを統一書式に基づき作り直した。



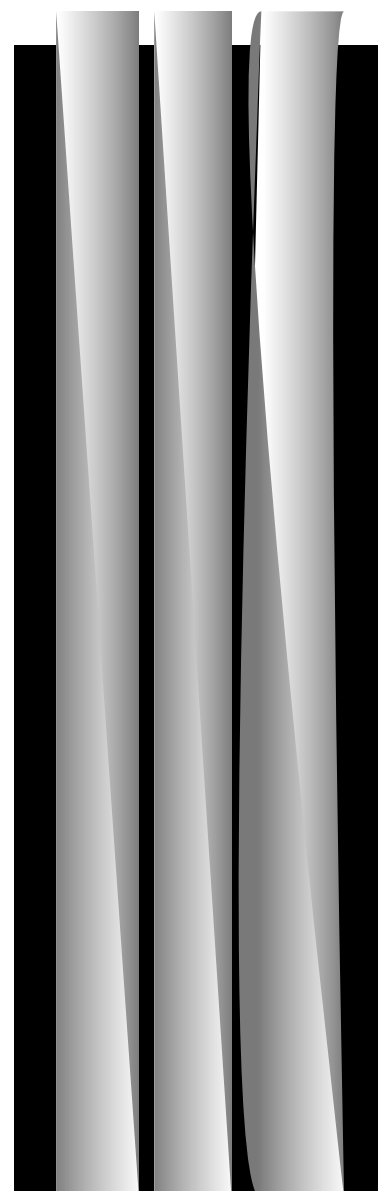
常設展示室



第 2 章

…… Chapter 2 ……

【 事 業 】

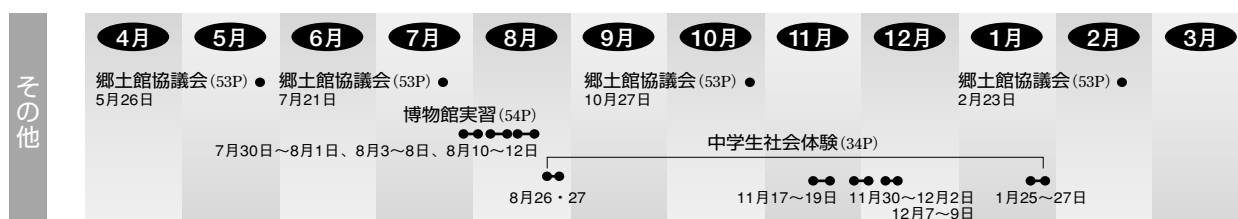


平成22年度の事業

春の収藏品展では、当館で所蔵する絵画の鑑賞の機会を増やしてほしいとの市民からの要望に応えるため、収蔵絵画四人展「飯能ゆかりの画家たち」を開催した。秋の特別展では「大地に刻まれた飯能の歴史」としてこの30年間の発掘調査の成果を展示した。昨年度に引き続き考古学を対象とした展示であったが、遺跡の調査から飯能の歴史がどこまでわかったかを具体的に示すことができた。

当館独自の市民との協働事業である市民学芸員は、参加人数の減少等が課題となってきたため、今年度、第Ⅴ期・Ⅵ期の市民学芸員養成講座を開催した。第Ⅴ期はこれまでの「博学連携型」の市民学芸員で、今回初めて、当館収蔵の古文書整理を担う「古文書整理型」の市民学芸員を第Ⅵ期として養成した。

平成17年に合併した名栗村から引き継いだ名栗村史編さん事業は昨年度完了したが、もう一つの課題である名栗村で収集した民俗資料の保存整理、活用について今年度から着手した。



収蔵絵画四人展

飯能ゆかりの画家たち 同時開催：新収蔵品展

期 間 平成22年3月21日(日)～5月9日(日)
 開館日数 40日間
 入館者数 4,126人(1日平均103.2人)
 展示点数 絵画37点 新収蔵品26点
 総経費 78,120円(入館者1人あたり18.9円)
 (内訳)印刷費 78,120

1 趣 旨

当館は歴史系博物館であるが、様々な経緯を経て一定量の絵画も収蔵している。収蔵絵画は飯能に住んでいた画家たちのものが中心である。

近年、市民から当館に対し、収蔵絵画を鑑賞する機会を設けてほしいとの要望が寄せられていたことから、収蔵品展の枠を用いて収蔵絵画展を企画した。

当展は、収蔵絵画の主体をなしている、白木正一・早瀬龍江・富山芳男・内田晃の四氏の作品について、市民に紹介することを主な目的とした。

ただし、展示を構成するにあたり、四氏の作風がそれぞれ異なる点が課題であった。具体的には、画家の作品はそれぞれ、シュルレアリスム(早瀬)、抽象画(白木・富山)、具象画(内田)として把握され、それらを同じ空間に展示した場合、展示の統一性が欠けることが予想された。

そこで、会期中に展示替えを行い、画家ごとに作品を紹介することとした。

なお、平成21年度に寄贈を受けた資料を紹介するための「新収蔵品展」を同時開催した。

2 展示の構成

展示ホール

会期中の全期間にわたり、四氏の作品を一点ずつ紹介するコーナーを、特別展示室に入る手前の展示ホールに設けた。展示する画家と、その作風の違いを紹介するのが目的である。

また、反対側の展示ホール壁面は新収蔵品展のコーナーとした。

特別展示室

特別展示室においては、期間を決め、画家ごとに作品を紹介した。ただし、白木氏と早瀬氏は夫婦で

創作活動を行っていたということと、両者の作品が同じ空間にあっても違和感がないと判断したため、同一期間に二人の作品を展示することとした。

期間中展示替えは二度行った。白木・早瀬両氏の作品の後、富山氏の抽象画を展示、その後、内田氏の風景画を展示した。

①白木正一・早瀬龍江

3月21日(日)～4月11日(日)

白木正一氏の作品は、初期のシュルレアリスムの作品と、抽象画を展示した。シュルレアリスムの作品として「地球よさようなら」・「焼土に降り立つペガサス」を選んだ。抽象画は、〈刷毛塗り〉やくたらしこみなどの日本の伝統技法を用いて描かれており、「白象と阿羅漢」にその表現の効果が良く表れている。早瀬龍江氏は、女性のシュルレアリスムの画家として、本邦においては草分け的存在である。

早瀬氏の作品は、美術文化展への出品を活発に行っていたころの作品を展示した。それらの作品には、サルバトール・ダリやイヴ・タンギーからの影響がみられる。



展示ホールの展示風景

②富山芳男 4月14日(水)～25日(日)

富山氏は、当初は写実主義的な手法による作品を発表していたのだが、昭和30年代半ばに抽象主義的手法を用いた創作に変化する。写実主義的表現に限界を感じたのがその理由である。

今回の展示では、抽象主義的手法へ移行した後の作品を展示した。その作品は自身の直観により感得された存在と美を、絵画として表出することを追及したものである。

③内田晃 4月28日(水)～5月9日(日)

内田氏の作品群はバラエティに富んでいる。その中にはシュルレアリスムの手法によるものや、抽象主義的な手法によるものも含まれているが、根幹をなすのは風景画である。中でも30回に及ぶ渡欧で描かれてきた、ヨーロッパの風景画に定評があった。今回は風景画を主体に展示した。

3 印刷物

ポスター(B2判カラー) 300枚
リーフレット(A4判白黒2ページ) 3,000枚

4 評価

冒頭でも述べたが、当館は歴史系博物館であり、美術担当の学芸員はいない。当展を担当した学芸員(筆者)も絵画は門外漢である。そのため、展示する作品の選定には大変苦労した。美術担当ではないとはいえ、学芸員としての立場を考えると、やはり“展示すべき作品”を展示したいからである。

結果的に、各画家の画集などを参考に、当館に収蔵されている作品の中でも、“代表作”もしくは“ある時期におけるその作家の作風を良く示すもの”をなるべく選ぶようにした。

ただ、展示スペースに限界があり、どうしても上手く配置できない場合もあった。そのような時には、展示構成全体のバランスを気にしつつ、それこそ担当者の“直観”で、「この作品を見せたい(見たい)」と思ったものを選んだ。

以上のような状況であったため、当展の内容についてはいささか心許ないものを感じている。

ただ、その一方で入館者数を見ると、一日の平均が100人を超えている。“鑑賞したい”と思っていた市民がある程度いたことを証するものなのかもしれないが、来館者の言葉などを聴くと、“画家を知っている(会ったことがある)”という人が幾人かいた。

画家の中には絵画教室などを開いていた人もおり、そういうところで接点を持っていた人たちも、観に来てくれたようである。そのような意味では、会期中の入館者数は、各画家の“人徳”も大きく影響していたと思われる。



常設展示室の展示風景

展示資料目録

No.	タイトル	製作年	作者(使用者)
3月21日(日)～5月9日(日) 四人の画家の紹介(展示ホール)			
1	詩人K氏像	1949	早瀬龍江
2	窓際	1970	白木正一
3	存在についての習作	1992	富山芳男
4	グラナダ風景	1974	内田 晃
3月21日(日)～4月11日(日) 白木正一・早瀬龍江(特別展示室)			
5	地球よさようなら	1956	白木正一
6	焼土に降り立つベガサス	1957	白木正一
7	仔牛	1968	白木正一
8	白象と阿羅漢	1968	白木正一
9	胡蝶・嵐	1969	白木正一
10	遅日	1978	白木正一
11	礁	1949	早瀬龍江
12	のぞみありや	1955	早瀬龍江
13	堆積苦惱	1955	早瀬龍江
14	知性の盲点	1955	早瀬龍江
15	禁断の遊戯	1956	早瀬龍江
4月14日(水)～25日(日) 富山芳男(特別展示室)			
16	存在についての習作	1963	富山芳男
17	石塀の中	1971	富山芳男
18	室内	1977	富山芳男
19	栄光の形相	1981	富山芳男
20	存在についての習作	1993	富山芳男
21	秋緑	1998	富山芳男
22	存在についての習作・飯能自然	—	富山芳男
23	窓外	—	富山芳男
24	(無題)	—	富山芳男
25	パレット(大)	—	(富山芳男)
26	パレット(小)	—	(富山芳男)
27	「絶対表現法No.2」(表紙)	—	富山芳男
28	「絶対表現法No.2」(14頁)	—	富山芳男
4月28日(水)～5月9日(日) 内田 晃(特別展示室)			
29	漁村風景	1958	内田 晃
30	塔のある港	1967	内田 晃
31	白い修道院	1970	内田 晃
32	ベニスの風景	1975	内田 晃
33	カンヌ風景	1990	内田 晃
34	街(ロンドン)	1991	内田 晃
35	街(パリ)	1991	内田 晃
36	残照	1995	内田 晃
37	雨の坂道	2002	内田 晃

大地に刻まれた飯能の歴史 —30年の発掘調査成果から—

期 間	平成22年10月17日(日)～12月5日(日)			
開館日数	41日間			
入館者数	4,468人(1日平均109.0人)			
展示点数	397点			
総 経 費	1,317,138円(入館者1人あたり294.8円)			
(内 訳)	印刷費 638,400	写真関係費 51,030	展示委託料 297,150	通信運搬費 66,530
	消耗品費 152,993	報 償 費 20,000	賃 金 91,035	

1 趣 旨

飯能市では昭和55年(1980)に初めて埋蔵文化財(遺跡)の保護を専門に担当する職員が配置され、ちょうど30年目の節目の年にあたる。この間、遺跡の保護とともに約230件にわたる発掘調査が市内で行われ、大地に刻まれた飯能の歴史が次第に明らかになってきた。

平成22年3月、飯能市教育委員会により『掘り起こせ! 地中からのメッセージ』という発掘調査でわかった飯能の歴史をわかりやすくまとめた本が出版された。今回の特別展では、この本をベースとして、実際の出土品を中心に展示することで、これまで行われた発掘調査の成果をより多くの市民に深く知ってもらおうことを目的として開催する。

なお、本展示は飯能市教育委員会生涯学習課との共催事業とした。

2 展示の構成

展示は導入として飯能市の遺跡保護・発掘調査30年のあゆみを紹介し、メインのコーナーでは発掘調査でわかった飯能の歴史を時代を追って展示した。最後にまとめとして遺跡の調査から地域の歴史を読む解く方法、遺跡の重要性を伝える構成とした。具体的には次のとおりである。

I. 飯能市の遺跡保護・発掘調査30年のあゆみ

飯能市での埋蔵文化財保護、発掘調査のあゆみをパネル等で紹介した。

II. 発掘調査でわかった飯能の歴史

発掘調査でわかった飯能の歴史を古い時代から順にたどった。

1. 旧石器時代

埼玉県教育委員会所蔵の市内遺跡からの出土品

を展示し、主に石の道具を用い、大地を駆けめぐっていた飯能に最初に住んだ人々の様子を紹介した。

2. 縄文時代

土器と弓矢の発明により縄文時代は始まった。環境に適応しながら約1万年間続いた当時の人々の生活の様子を5つの時期に分け、それぞれの特徴、変化がわかるように展示した。

3. 弥生・古墳時代

米作りが始まった弥生時代とそれに続く古墳時代は市内ではまとも人が住んだ形跡が見つかっていない。わずかに発見されている古墳時代の出土品などを展示した。



展示風景1「縄文時代」のコーナー



展示風景2「奈良時代」のコーナー



展示風景3「近世」のコーナー



関連講座「小岩井渡場遺跡の発掘調査」

4. 奈良時代

716年、関東地方の渡来人を集め「高麗郡」を設置したことが当時の歴史書に記されている。高麗郡は現在の飯能市・日高市付近であり、この頃から新たな開拓が始められたことが遺跡の調査からもわかっており、その成果を中心に展示した。

5. 平安時代

奈良時代の集落は平地部に限られていたのが、平安時代になると入間川・高麗川をさかのぼって山間部へも進出してきたことを資料から紹介した。

6. 中世

中世の事跡は建物や石造仏、仏像など市内に多く残されているが、発掘調査ではこの時期の様子はあまりよくわかっていない。そのため、断片的な調査成果の展示となった。

7. 近世

近世では各家に残された古文書などから当時の様子が見えやすくなるが、遺跡の調査でしかわからないことも多くある。その一例として江戸時代末から明治時代初期にかけて焼かれていた「飯能焼」の窯跡の調査成果を紹介した。

Ⅲ. まとめ

遺跡の調査から地域の歴史を読み解く方法、遺跡の重要性をパネルで紹介した。

3 印刷物

ポスター(B2判カラー)	300枚
チラシ(A4判カラー2ページ)	10,000枚
展示図録(A4判カラー56ページ)	800部

4 関連事業

◎関連講座「発掘調査でわかった飯能の歴史」

①「小岩井渡場遺跡の発掘調査」

日 時 10月23日(土) 午後1時30分～3時

講 師 中島 宏氏(埼玉県立歴史と民俗の博物館)
会 場 当館学習研修室
参加者 23人

②「飯能市の埋蔵文化財保護行政30年のあゆみ」

日 時 10月30日(土) 午後1時30分～3時
講 師 曾根原裕明(飯能市教育委員会)
会 場 当館学習研修室
参加者 21人

③「発掘調査でわかった縄文時代の飯能」

日 時 11月20日(土) 午後1時30分～3時
講 師 宮内慶介(飯能市教育委員会)
会 場 当館学習研修室
参加者 30人

④「発掘調査でわかった奈良・平安時代の飯能」

日 時 11月27日(土) 午後1時30分～3時
講 師 富元久美子(飯能市教育委員会)
会 場 当館学習研修室
参加者 36人

5 評価

この30年の発掘調査の成果をすべての時代にわたってどう見せるかに苦心した。しかし、内容については『掘り起こせ!地中からのメッセージ—発掘調査でわかった飯能の歴史—』でまとめてあったので、この中からどれを展示するかを選ぶ形となった。その上で、1点を大切に示す展示、数で圧倒させる展示などの手法を取り込み、各時代の特徴を印象づける展示を試みた。会場は迷路のようになってしまったが、展示資料が多かったこともあり、入館者のアンケートには見応えがあった、飯能の遺跡のことがよくわかった、内容が充実していたなどが書かれており、概ね好評だった。コーナーとしては縄文時代と奈良時代に人気があった。

ここで展示した成果を将来の常設展示改装にどう生かすか、それが今後の課題と言える。

展示資料目録

・所蔵者のうち、特に記されていないものは飯能市教育委員会所蔵。

資料名	点数	出土遺跡	備考(時期・所蔵者等)
旧石器時代			
ナイフ形石器	11	屋淵遺跡	埼玉県教育委員会所蔵
剥片	12	屋淵遺跡	埼玉県教育委員会所蔵
尖頭器	1	中台遺跡	埼玉県教育委員会所蔵
ナイフ形石器	3	中台遺跡	埼玉県教育委員会所蔵
搔器	1	中台遺跡	埼玉県教育委員会所蔵
剥片	13	中台遺跡	埼玉県教育委員会所蔵
削器	6	旭原遺跡	埼玉県教育委員会所蔵
二次加工剥片	1	旭原遺跡	埼玉県教育委員会所蔵
剥片	4	旭原遺跡	埼玉県教育委員会所蔵
縄文時代			
加曾利E式土器	1	加能里遺跡21次	中期、26号住居跡
石皿・磨石	2	八王子遺跡	中期、23号住居跡
弓矢(複製)	1	—	
隆起線文土器片	9	小岩井渡場遺跡	草創期
尖頭器・搔器・剥片ほか石器	12	小岩井渡場遺跡	草創期
深鉢形土器	1	加能里遺跡39次	早期
撚糸文土器片	1式	加能里遺跡39次	早期
条痕文土器片	1式	落合上ノ台・堂ノ根遺跡1次	早期
花積下層式土器	3	落合上ノ台遺跡	前期、52号住居跡
関山式土器	1	小岩井渡場遺跡	前期、11号住居跡
関山式土器片	1	小岩井渡場遺跡	前期、11号住居跡
石鎌・両頭石槍ほか石器	13	小岩井渡場遺跡	前期、11号住居跡ほか
黒浜式土器	9	三ヶ谷戸遺跡	前期
縄文時代住居模型	1	—	中期
勝坂式土器	3	落合上ノ台遺跡	中期
勝坂式土器	2	八王子遺跡	中期
勝坂式土器	9	加能里遺跡15次、21次ほか	中期
勝坂式土器	1	中郷遺跡3次	中期
阿玉台式土器	1	落合上ノ台遺跡	中期
加曾利E式土器	3	落合上ノ台遺跡	中期
加曾利E式土器	2	加能里遺跡21次	中期
加曾利E式土器	2	芋久保遺跡2次	中期
浅鉢	3	落合上ノ台・加能里・八王子遺跡	中期
器台	2	落合上ノ台・中郷遺跡3次	中期
ミニチュア土器	3	落合上ノ台遺跡	中期
ミニチュア土器	1	加能里遺跡11次	中期
耳栓	17	落合上ノ台・八王子・堂前遺跡ほか	中期
土製装身具	5	落合上ノ台遺跡	中期
獣面・顔面把手破片	4	落合上ノ台遺跡	中期
土偶	6	加能里遺跡	中期
動物形土製品	1	加能里遺跡21次	中期、21号住居跡
加曾利E式土器	22	加能里遺跡20次	中期、15号住居跡一括出土
打製石斧・石鎌ほか石器	1式	加能里遺跡	中期
称名寺式土器	1	落合上ノ台遺跡	後期
堀之内式土器	2	加能里遺跡10・17次	後期
加曾利B式土器	1	中橋場遺跡	後期
打製石斧・石鎌・磨石ほか石器	1式	栗屋遺跡6次	後期
安行式土器	8	中橋場遺跡	後・晩期
安行式土器	5	加能里遺跡8次・27次	後・晩期
安行式土器片	1式	加能里遺跡8次	晩期、1号住居跡
磨石・石皿・打製石斧ほか石器	1式	加能里遺跡10次	後・晩期

資料名	点数	出土遺跡	備考(時期・所蔵者等)
耳飾り	19	加能里遺跡・中橋場遺跡	後・晩期
人面付土器片	1	中橋場遺跡	晩期
土偶	1	中橋場遺跡	後・晩期
土偶	10	加能里遺跡	後・晩期
石棒	6	加能里遺跡・中橋場遺跡	後・晩期
石剣	3	加能里遺跡・中橋場遺跡	後・晩期
独鈷石	2	加能里遺跡・中橋場遺跡	後・晩期
製塩土器片	1式	中橋場・加能里・熊坂遺跡	後・晩期
安行3d式土器片	1式	中橋場遺跡	晩期
弥生・古墳時代			
甕・高環ほか土器	7	加能里遺跡5次	古墳時代(5世紀)
奈良時代			
常陸産須恵器・土師器	8	堂ノ根遺跡1次	奈良時代前葉
黒色土器片(北関東産)	3	新堀・新井原・張摩久保遺跡	奈良時代前葉
相模型坏	2	甲新田・新堀遺跡	奈良時代前葉
甲斐型坏	1	張摩久保遺跡25次	奈良時代前葉
湖西産須恵器甕破片	6	株木遺跡1次	奈良時代前葉
ろくろ成形の土師器甕	1	張摩久保遺跡25次	奈良時代前葉
厚手・長胴形の土師器甕	1	新井原遺跡4次	奈良時代前葉
南北企窯跡群生産須恵器	6	張摩久保遺跡12次	奈良時代前葉、1号住居跡
前内出窯跡群生産須恵器	10	張摩久保遺跡25次	奈良時代中葉、13号住居跡
東金子窯跡群?生産須恵器	10	新井原遺跡3次	奈良時代後葉、8号住居跡
新久窯跡群生産須恵器	7	張摩久保遺跡22次	平安時代前葉、1号住居跡
須恵器甕・坏ほか	6	張摩久保遺跡ほか	
土師器甕・坏ほか	6	張摩久保遺跡ほか	
奈良時代竪穴式住居模型	1	—	
鉄製鎌	1	張摩久保遺跡	
鉄製紡錘車	1	西川小遺跡	
石製・土器製紡錘車	4	張摩久保・新堀遺跡	
土錘	10	張摩久保遺跡17・28次	
鉄鎌	3	張摩久保・新井原遺跡	
円面硯・風字硯破片	6	張摩久保遺跡	
刀子	2	張摩久保遺跡	
コップ形須恵器・錘	3	張摩久保遺跡・中原遺跡	
銅碗破片	2	張摩久保遺跡	
瓦	1	張摩久保遺跡	
瓦塔破片	1	大字平松出土	
灯明皿	4	張摩久保遺跡	
張摩久保遺跡景観イメージ模型	1	—	
平安時代			
須恵器坏・甕ほか	12	西川小・ヨマキ遺跡	
鉄斧	1	横道下遺跡	
窯跡出土癒着須恵器など	1式	河原毛久保窯跡	
鍛造鉄破片	1式	中原遺跡4次	鍛冶遺構出土
羽口	1	中原遺跡4次	鍛冶遺構出土
近世			
窯道具	1式	飯能焼原窯跡	
素焼き	1式	飯能焼原窯跡	
イッチン口金	2	飯能焼原窯跡	
片口鍋・小皿・小鉢ほか飯能焼	1式	飯能焼原窯跡	広く流通していた製品
徳利・土瓶ほか飯能焼	1式	飯能焼原窯跡	地元周辺流通の製品
小形徳利・合子ほか飯能焼	1式	飯能焼原窯跡	江戸近郊流通の製品

その他の展示

当館では、収藏品展や特別展のほかにも、文化財の普及啓発や収蔵資料の紹介などを目的として、いろいろな展示をおこなっている。ここでは、それらを紹介する。

第6回

「マイ・コレ。」(マイコレクション展)

期 間 平成22年5月30日(日)～6月27日(日)

開館日数 25日間 展示点数 547点

入館者数 1,901人(1日平均76.0人)

1. 趣 旨

「マイ・コレ。」は、市民のコレクションを広く紹介するもので、コレクションのおもしろさやその意義を伝えると共に、新たな入館者層の獲得と特別展示室の有効利用を目的としている。平成19年度より開始された本事業は、今回が6回目となる。

2. 内 容

今回は、「ウルトラヒーローと怪獣たち」(コレクター：森口彰徳氏)、「たびたびの旅」(コレクター：遠山光保氏)の2件のコレクションを紹介した。

展示資料は、前者が昭和40年代に大通りにあった玩具屋「畑久」で買い集めたウルトラヒーローや怪獣たちのプロマイド、「ソフビ人形」など116点、後者



「ウルトラヒーローと怪獣たち」展示解説

が旅の副産物ともいえる全国の城郭、博物館、美術館などのチケットの半券431点である。

3. 関連事業

◎コレクター自身による展示解説

日 時 ①6月6日(日)午後1時30分から

森口彰徳氏

②6月13日(日)午後2時から

遠山光保氏

参加者 ①15人 ②12人

駿河台大学野村ゼミ実習展示

「木とともに生きる」

期 間 平成22年7月11日(日)～7月25日(日)

開館日数 13日間 展示点数 27点

入館者数 912人(1日平均70.2人)

1. 趣 旨

飯能市では地元大学である駿河台大学と様々な面で連携した事業を展開している。この展示もその一環で、野村ゼミからの依頼により昨年度より実施しているものである。将来学芸員をめざすゼミの学生が、学習の一環として企画・準備し、展示の設営まですべて学生たちが担った。

期間中は、学生が常時会場にいて来館者に丁寧に対応していた。



展示風景

2. 内 容

人間は自然なしでは生きられない。そのため自然との共存が不可欠である。この展示では、その自然の中から身近な「木」というものに焦点を絞り、飯能の西川材や巨木を例として取り上げ、人とのかかわりあいを紹介していく。自然との共存の現実を伝え、来館者に自分の考えを見つけてもらう機会を提供することを目的とした。

展示は1「飯能の木と人」として西川材、巨木と鎮守の森、里山などの利用しているものや共存していると思われるものを展示し、2「木を育てる、森を守るということ」で理想の森、飯能の森、守る活動を紹介、最後に3「一人一人ができること」として教育の一環として実施されている森林学習を取材した様子を展示した。また、期間中、木に関係する紙芝居を定期的上演した。

小学3年生見学対応展示

むかしのくらし —民家の台所再現—

期 間 平成23年1月5日(水)～2月6日(日)

開館日数 29日間 展示点数 53点

入館者数 3,347人(1日平均115.4人)

1. 趣 旨

小学校では、3年生になると人々の暮らしの移り変わりについて学ぶことになっており、その一環として当館の見学が組み込まれている。この展示は、この単元の学習に対応するために、平成14年度から毎年開催しているものである。

また、最近では博物館で所蔵している昔の道具を高齢者の認知症ケアのひとつである回想法に役立てようとする試みが行われている。こうした動きを受けて、当館でも、平成20年度より市内や近隣に所在する高齢者の介護施設にも案内を行っている。

3. 内 容

特別展示室内に農家のカッテと土間の様子を

再現した。カッテには囲炉裏を作って周囲に箱膳や茶の間にある家具などを置いた。また土間にはかまど、流し場を設けて関連する道具を展示するとともに、壁面を使って農具などを掛けた。

3. 関連事業

◎火のし・炭火アイロン／石臼体験

日 時 2月6日(日) 午前10時～午後3時

指導者 当館市民学芸員

会 場 当館特別展示室・休憩コーナー

参加者 火のし・炭火アイロン 99人

石臼 182人



展示風景

ミニ展示

「ひなまつり」

期 間 平成23年2月20日(日)～3月6日(日)

開館日数 14日間 展示点数 55点

入館者数 3,529人(1日平均252人)

1. 趣 旨

商店街の活性化を主な目的として、商店の店先や民家の座敷などに雛人形を展示してもらい、

観光客や市民に雛飾りと街の散策を楽しんでもらう「雛飾りお宝展in飯能」は平成22年度で6回目を迎えた。

年々規模が拡大し、参加する店や家は124箇所となった。また、25ヶ所分のスタンプを集めると景品がもらえるというスタンプラリーが、初めて行われた。

当館では商店街との連携を目的として第1回目から毎年、ミニ展示として参加している。

2. 内容

平成22年度の展示も、規模を拡大した平成21年度同様、特別展示室・展示ホール・エントランスホールを用いて展示した。

特別展示室では「むかしのくらし」で設営した囲炉裏と板の間をそのまま残し、その上に雛人形と女兒用の祝い着を展示した。反対側の壁には高野敬子氏所蔵のコレクションである雛掛け軸7点および、ケース内に雛飾りの小道具13点を展示した。また、板の間の左側には、ひなまつりに関わる古写真を展示し、

飯能市域における昔の雛飾りについて解説を加えた。展示ホールには畳を敷いた上に段飾りの御殿雛を配し、常設展示室側に明治・大正期の内裏雛、大正期の祢雛、浮世人形を並べた。特別展示室側にはエアタイトのケースに享保雛と雛掛け軸2点を展示した。

エントランスホール等にはケース内に内裏雛を展示し、その上に山田麻子氏の書を飾った。

飯能市商店街連盟の要請により、特別展示室の板の間の上に吊るし雛も飾ったため、全体的に賑やかな展示となった。



展示風景

3. 関連事業

期間中、関連事業として「折り紙でつくるおひな様」を、市民学芸員が主体となり実施した。

◎折り紙でつくるおひな様

日時 3月5日(土)・6日(日)

午前10時～12時・午後1時～3時

講師 当館市民学芸員

会場 当館休憩コーナー

参加者 5日55人、6日58人

今月の一品

1. 趣旨

当館では、入口右側、展示台上の縦・横・高さともに60cmのケース内に、月替わりで収蔵資料を展示している。「今月の一品」と題し、その時期にふさわしい資料を展示することで季節感を加えるとともに、収蔵資料の活用を図っている。この展示は平成18年6月から実施しており、「一品」とは一つの品と言う意味に「逸品」もかけて命名した。

展示した資料の写真と解説はホームページにも掲載しており、ここでは過去に展示したものも見るができるため、収蔵資料の紹介の役割も果たしている。

2. 展示資料

今年度展示した資料は右一覧表のとおりである。

◆展示資料一覧

月	資料名	資料番号等
4月	江戸時代の子どもの手形	小瀬戸村須田家文書No356
5月	携帯用の提灯	民具No2039・2211
6月	面子	民具No4392
7月	「質物」になった筏から…	小瀬戸村須田家文書No702并
8月	メガホン	民具No3515
9月	相撲番付	小瀬戸村須田家文書No738
10月	麦播機	民具No408
11月	精道さんの日記の書き方	小瀬戸村須田家文書No2
12月	圧力釜	民具No3560
1月	須田家の蔵書	小瀬戸村須田家文書No109ほか
2月	新民謡のレコード	レコードNo379・701・721
3月	精道翁碑の造立費用	小瀬戸村須田家文書No544

夏休み子ども歴史教室

「泥めんこ・めんこを作って遊ぼう」

日 時 ①平成22年8月5日(木)
午前9時30分～12時00分
②平成22年8月6日(金)
午前9時30分～12時00分

対 象 小学生低学年

参加者数 ①20人 ②15人

会 場 当館学習研修室

指 導 者 村上達哉(当館学芸員)
市民学芸員(2人)
ボランティア研修生(小学校教諭1人)
博物館実習生(5人)

1. 趣 旨

平成22年度の夏休み子ども歴史教室は、“自分で作って遊ぶ”体験教室として企画した。

平成21年度に、市民学芸員紙芝居部会が中心となって実施した、「[昔の子どもの遊び]と[紙芝居]についてのアンケート調査」の結果、道具を用いての遊びの中でめんこが比較的多かったことから、めんこを自作し遊ぶこととした。

アンケートの対象となった50歳代以上の人達の回答では、めんこは自作していなかったのだが、夏休みの工作として、子ども達の手元に残るであろうと考え、作る場所から始めることにした。

2. 内 容

これまで、夏休み子ども歴史教室は、対象を小学校低学年と高学年で分け、一日ずつ別のプログラムを組み合わせることや、対象を分けずプログラムの内容を充実させ、二日間で行うなど、検討を重ねてきた。「泥

めんこ・めんこを作って遊ぼう」のプログラム構成は、後者に該当する。

1日目に泥めんこ・紙めんこを作り、2日目は木のめんこを作った後、1日目に作った泥めんこ・紙めんこも用い「めんこ大会」を行った。

8月5日(木)

まず、最初に昔の子どもの遊びとめんこ遊びについて概略を話し、日程の説明を行った。

その後、紙めんことその作り方の手順について話し、工作した。紙めんこが完成したところで休憩し、次いで泥めんこについて解説、作り方を説明し工作した。工作时は、市民学芸員、ボランティア研修生の小学校教諭、博物館実習生と担当学芸員の合わせて9人で、子ども達の指導と手助けを行った。

子ども達は、紙めんこに好きな絵を描くことや、泥めんこ作りを楽しんでいた。泥めんこ作りは事前に用意しておいた型に、加熱による焼成が可能な工作用粘土を詰め、取り出してトースターで焼き固めるというものである。

8月6日(金)

2日目は、冒頭で予定を話し、その後木のめんこの工作を行った。

木のめんこは、昔から遊ばれていたものではないが、飯能市域が西川材の産地であることから、“木のおもちゃ”を意識し、工作することにした。

西川材の板を用意し子ども達に配布、子ども達はカーボン紙と鉛筆で板に好みの図柄を写し、色を塗って完成させた。

工作が終了したら、休憩をはさんで「めんこ大会」の開始である。8月4日以前に、事前準備として学芸員実習生に泥めんこ・紙めんこ・木のめんこの遊び方とルールを考えてもらっており、それに基づき、学習研修室内に遊び場所を設置した。



めんこ作り



めんこで遊ぶ

大会開始に先立ち、市民学芸員に講師を依頼し、昔のめんこ遊びについて語ってもらった。その後、大会を開始した。

遊び方は以下のとおりである。

泥めんこ：模造紙に的を複数書いたものを用意し、それに目がけて泥めんこを投げる。小さなほど得点が高い。

紙めんこ：紙製の的を、めんこの風圧で倒す。倒れにくいものほど得点が高い。

木のめんこ：白いボードの上に木のめんこを滑らせ相手のめんこに当て、ボードの外に押し出すと勝ち。勝つと得点する。リーグ戦で行う。

大勢で遊ぶため、学習研修室内は子ども達の笑い声のはじけ、盛り上がりを見せた。

最後に、各コーナーでの得点を合計し、最も得点が高い子から優勝者、準優勝者として表彰した。



木のめんこで遊ぶ

事業の評価としては、子ども達の楽しそうな姿から、内容は悪くなかったと思われるが、二日間連続で参加できない子ども達がいたことから、内容をコンパクトにし、一日のみ実施する形でも良かったかもしれないと考えられる。

夏休みこどもクラブ

日 時 平成22年7月30日(金)～8月20日(金)
午前9時～午後5時

対 象 市内の小学生

会 場 当館常設展示室・入口前スペース

参加者数 のべ200人

1. 趣 旨

夏休み中の子どもの居場所として社会教育施設がそれぞれの特性を活かして連携し、より有意義な夏休みを子どもたちに過ごしてもらうことを目的とするもので、当館、中央公民館、子ども図書館が平成16年度より共催で行っている事業である。

「居場所づくり」を通して子どもたちの健全育成や地域の教育力の向上に社会教育施設が積極的に寄与するとともに、日ごろ疎遠になりがちな社会教育施設に気軽に親しんでもらう契機になることも意図した。

また、公民館・図書館・博物館が近傍に位置している地の利を活かし、より連携を深めて事業展開していくきっかけになるものと位置付けている。

2. 内 容

三館共通のスタンプカードを発行し、期間中に当

館や中央公民館、こども図書館の各会場で定められたことに参加するとそれにスタンプが1つ押される。20個集めると記念品がもらえるという特典があり、子どもたちに喜ばれた。

当館では、常設展示室内に、シール紙に印刷したパズルのピースが入った箱を置き、日替わりで中身を変え場所を移動させた。それを毎日集め、用意されている台紙に貼り付けていくと、郷土館の絵が完成するようにした。

また、7月31日(土)と8月1日(日)には「竹の水鉄砲で遊ぼう」というコーナーを当館入口手前に設置し、市民学芸員が水鉄砲を作る指導をし、それで遊んでもらった。



竹の水鉄砲で遊ぼう

やさしい古文書講座 VI

日 時 平成22年8月29日(日)・9月5日(日)・
12日(日)・19日(日)
いずれも午前10時から12時まで

対 象 一般

会 場 当館学習研修室

参加者数 のべ109人

講 師 浅見徳男氏(飯能市文化財保護審議委員会
委員)・島田稔氏(同上)・尾崎泰弘(当館
学芸員)

1. 趣 旨

ここ数年来の古文書ブームはとどまるところを知らず、くずし字解読のためのハウツー本は書店の棚を賑わせている。これらのことは、古文書を学ぼうとする人たちのハードルを確実に低くしていると考えてよいだろう。

ところで、当館では昨年度名栗村史編さん事業が完結し、現在は50,000点を越える古文書、典籍を収蔵するに至った。当該事業においては、村史研究『那栗郷』などで一部の史料は翻刻されているものの、全体でみればごく一部であり十分に活用されているとは言い難い状況にある。またエコツーリズム推進事業の伸展に伴い、飯能の魅力をアピールするための地域情報資源が求められており、これらの発掘には地域史料の翻刻、分析が不可欠となってきている。

この講座は、こういった市民の学習要望に応え、かつ館所蔵の地域史料をより多くの市民に利用してもらうために開催したものである。

なお、本講座は本年5月より開始されている第VI期市民学芸員養成講座(古文書整理型)の養成テーマ研修に指定されていることから、本講座のみの受講生は、会場の都合から15人の募集とした。

2. 内 容

当館所蔵史料を使って、近世の地方文書解読のための基礎知識やその内容、背景などをやさしく解説した。

第1回(8/29) 江戸時代の支配機構や社会の様子

など近世文書を読むために必要な知識を学んでもらった。

第2回(9/5) 御成箇の割付証文から、当時の村内の仕組みや村人の生活ぶりを知ってもらった。

第3回(9/12) 名栗村史編さん事業に使われた史料から、江戸時代最大の百姓一揆といわれる「ぶっこうし」(武州一揆)の様子を読み解いてもらった。

第4回(9/19) 市指定文化財である振武軍廻文を読み、古文書が歴史的事実の一端を伝えているに過ぎないことを知ってもらうとともに、他の史料も使って飯能戦争の全体像を理解してもらった。



第3回講師 島田稔氏

親子体験教室

むかしのおやつ「さつま団子」を作って食べよう

日 時 平成22年12月5日(日)
午前9時30分から12時00分まで
対 象 小学生児童及びその保護者
会 場 当館学習研修室
参加者数 親子13組28人
講 師 市民学芸員(5人)
村上達哉(当館学芸員)

1. 趣 旨

本親子体験教室は、市民学芸員(博学連携)の中の休日の体験学習検討部会により企画・実施された。約2年間検討を重ね、実現までこぎつけたものである。

さつま団子は、飯能市域で育った市民学芸員の中で、戦後間もない頃食べた記憶を持つ人が何人もおり、それぞれの家庭で、それぞれの作り方で調理され、食べられていたおやつである。

休日の体験学習検討部会は、さつま団子をキーワードに、飯能市域における食の民俗及び、終戦直後の食糧事情、当時の食にまつわる思い出などを、子ども達に伝えることが可能と考え、企画した。

2. 内 容

まず、当館学芸員が、講座の趣旨と予定について説明した。次いで市民学芸員がさつま団子・さつま芋の切干の説明、再び当館学芸員がさつま芋の歴史などを説明した。

その後、市民学芸員がさつま団子の調理方法を説明し、全員で調理にあたった。

休憩した後、市民学芸員からさつま団子にまつわる思い出を語ってもらい、試食をしながら皆で聞いた。

事業の評価としては、「さつま団子が美味しかった」、「作るのが楽しかった」という参加者の感想もあり、昔のおやつについて知ってもらおうという所期の目標は達成できたと考える。

ただ、問題点もあり、参加した子ども達の中には

幼児も含まれており、その保護者から説明が難しかったとの声があった。とは言うものの、ただ単にさつま団子を調理し食べるだけでは、郷土館で行う意味がなく、一方で幼児にも理解できる説明を行うには、事前に相当の練り上げが必要である。今後、同様の体験教室を行うことを考えた場合、大きな課題と言える。

本事業を、市民学芸員活動としての側面から見た場合、市民学芸員が中心となってさつま芋の調査から始め、度々の会合により検討を重ね実現したという点において、画期となる事業として評価できる。最終目的地まで到達したという意味で、大きな達成を成し遂げたと言えよう。

最後に、紆余曲折を乗り越え、館のために尽力された休日の体験学習検討部会に、感謝の意を表するものである。



さつま団子作り

行政運営において、市民との協働はもはや不可欠のものとなってきた。博物館でも市民との協働や連携による事業の取り組みが多く見られるようになった。

博物館における市民参加活動を一般的に「交流」活動と呼んでいるが、当館においては、定点撮影プロジェクトと市民学芸員がそれにあたる。当館と市民との双方向性の情報交換と交流を目的とするこれらの事業は、当館の活動においての特色の一つとも言え、力を入れて取り組んでいる。

定点撮影プロジェクト

1. 概要

定点撮影プロジェクトは、市民自らが、刻々と移り変わっていく「今」の時代を写真で記録し後世に残していくことを目的として平成10年度に開始した事業である。

参加者は各地域で決められた地点を定期的に撮影する(地点撮影)。撮影地点は通り・駅前・交差点など昔から写真に撮られているところや変化の激しいところ、橋や学校などの地域の特徴的な建物などである。また、これとは別に、日常的な生活を写真で残すために毎年参加者で設定したテーマに沿った撮影をおこなっている(テーマ別撮影)。

撮影した写真は撮影者がフィルム台帳に内容を記録するとともに、地点撮影の場合には撮影場所、撮影目標、撮影の際の注意点などをまとめた「撮影地点カード」を作成している。地点撮影もテーマ別撮影も日常生活している人でないと本来の生活の様子は撮影できないものであり、地域の変化を示す良好な資料として当館に蓄積されている。

また、撮影した成果を紹介するための写真展を毎年開催している。この写真展の展示作業や解説文の

執筆などは参加者が主体的におこなっており、現在では当館職員がそれをサポートする程度で完成するまでに至っている。この展示は、他の市民に対しても写真記録の必要性を伝え身近な歴史を考えるきっかけを与えるものとなっている。

現在、会員は24人が登録されており、打合会や展示準備には参加できなくても定期的に写真撮影を続けている会員もいる。ただ、会員の高齢化が課題となっており、会員を増やす努力を続けている。



会員による展示準備作業

活動一覧

回	月日	曜日	種類	内 容	参加人数
1	5/8	土	打合会	写真展の展示写真の確認と決定	6
2	6/6	日	打合会・展示準備	写真展のタイトル決定、展示写真のパネル貼り	8
3	6/20	日	展示準備	解説文等の検討・作成	8
4	6/27	日	展示準備	解説文等の検討・作成	6
5	7/11	日	展示準備	解説文等の検討・作成	8
6	7/24	土	展示準備	解説文等の検討・作成	5
7	7/31	土	展示準備	展示設営	10
8	12/18	土	打合会	写真展の反省、次年度の写真展の内容検討	6
9	2/13	日	打合会	次年度の写真展展示写真(昭和の思い出写真)選定など	7
10	3/27	日	打合会	次年度写真展展示写真選定、今後の予定など	5

合計のべ 69人

2. 活動の概要

今年度は活動を開始してから12年目となり、干支がひとまわり過ぎたこともあり、定点撮影プロジェクト写真展はこれまでの活動の成果を展示した。

地点撮影は毎年4～5月にかけて実施しているが、前年度は写真展の開催時期を早めたためこの時期に撮影できず、10月～11月に実施した。このため、今年度も4～5月には基本的には撮影せず、特に変化があった地点のみ撮影することとした。

3. 定点撮影プロジェクト写真展

第11回

「みんなで撮った変わりゆく飯能 —定点撮影12年の成果—」

期 間 平成22年8月1日(日)～8月29日(日)

開館日数 25日間

入館者数 1,970人(1日平均78.8人)

展示点数 写真114枚(30地点)

1. 開催趣旨

定点撮影プロジェクトが始まったのは平成10年の寅の年だった。そして今年、ふたたび寅の年を迎えた。この節目の年として、この12年間の活動の成果をふりかえり、紹介することを目的に開催する。

この展示を通して、12年間の歳月の流れを感じ取ってもらうとともに、定点撮影の意義、重要性を伝えたい。

2. 展示構成

最初に「毎年の記録」として、代表的な4地点を選び、その毎年の写真を並べた。次に「各地の定点撮影」として主な26地点を選び、それぞれ2～4枚ずつの写真を展示し、新旧を対比させた。

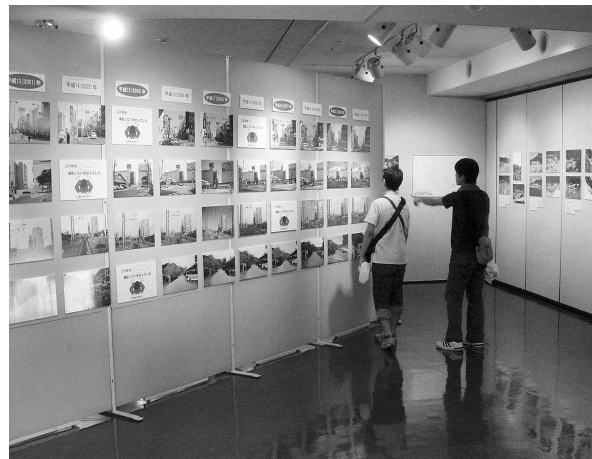
そのほか、「定点撮影プロジェクト」活動の記録として、これまで開催してきた写真展の展示の様子やポスターなども展示した。

3. その他

展示写真の一部を10月1日(金)～11月1日(月)の期間、西武飯能ペペの4階ホール前で展示した。



展示風景



展示風景

市民学芸員

1. これまでの経緯

当館における市民学芸員とは「市民に向けた学習機会を提供するシステム」であり、「本務学芸員を補完する立場」で「博物館側の情報発信機能と受け手の市民の間をつなぐ伝達媒体としてのサポーター」であると位置づけられている(当館『研究紀要』第1号)。平成20年度に文部科学省が実施した社会教育調査では、市が設置する博物館のうちほぼ半数で、ボランティアの登録制度を有しているが、当館の場合は教育普及や整理など事業別にその都度養成を行い、市民学芸員の認定をしている点が特徴である。

まず第Ⅰ期市民学芸員の養成は、平成12年1月の「特別展企画運営参加型」で、21人が参加した。講座の受講者は、同年秋に予定されていた特別展「飯能、戦後の暮らし」の企画段階から参加し、また体験教室や展示解説などの運営にも携わった。

第Ⅱ期は、平成12年3月の「博学連携事業参加型」で、30人の参加を得て同年7月の夏休み親子歴史教室及び翌年1・2月の小学3年生見学対応に従事した。その結果、当館が提供する小学3年生の「むかしの暮らし」の学習プログラムは、質、量ともに飛躍的に充実し、それ以後の小学3年生の見学対応はこの体制をベースに行われている。

第Ⅰ期、Ⅱ期と教育普及分野での養成であったが、第Ⅲ期は西川林業の道具の基礎調査を行っていくもので、平成16年2月から養成が開始された(「民俗調査参加型」)。この調査の目標は、当館にとって長年の懸案であった西川材の生産に関わる道具を県指定文化財とすることにあり、新たに2人が市民学芸員と

して認定された。この養成講座には、Ⅰ・Ⅱ期の市民学芸員も参加したため一体的に活動することとなり、結果的には「民俗調査参加型」の新たな市民学芸員も小学3年生見学の対応にも従事してもらうことになった。

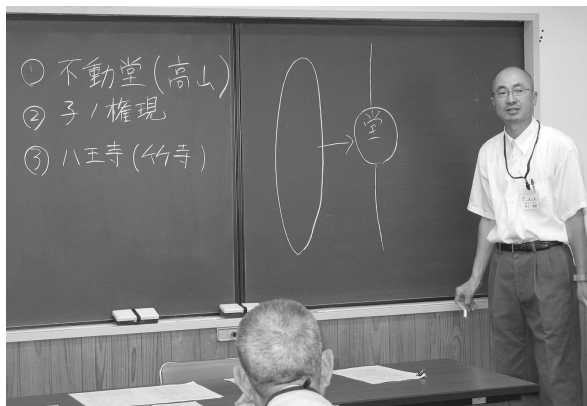
さらに、平成19年度には博学連携事業参加型としては2度目、通算ではⅣ期となる市民学芸員の養成講座を実施した。そして今年度になり、第Ⅴ期として博学参加型及び第Ⅵ期として古文書整理型の市民学芸員を養成した(28ページ参照)。

2. 活動の概要

これまで、通算で4回市民学芸員の養成を行ってきたが、新たな人たちが加わるとこれまで活動を行ってきた方が休止する、という状況に至ることが続いている。Ⅳ期の養成によっていったんは増えた市民学芸員ではあったが、平成22年度は23人でスタートした。当該年度の新機軸は、研修会の中に市域を知るためのフィールドワークを入れることとし、子ノ権現(大字南)の江戸時代以来の参道を歩いた。

部会活動であるが、平成20年度から始まった「休日の体験学習プログラム」部会は3年目の活動に入り、12月には当部会で企画した体験学習会「昔のおやつ『さつま団子』を作って食べよう」を実施した(22ページ参照)。また、小学校のすべての教科書を見て、当館の収蔵資料のうち教材として貸し出すことのできるもののリストを作成する部会を新たに立ち上げた(小学校の教材リスト作り部会)。

そのほか、例年どおり下半期には小学3年生見学対応プログラムの改善に取り組んだ。



5月例会・第1回研修会



5月・館外研修会 子ノ権現山道を歩く

活動一覧(全体)

回	活動日	曜日	時間	テーマ	講師・担当	内 容	参加人数
1	4/10	土	9:30	4月例会	尾崎・村上	平成22年度の活動内容、部会活動について	12
2	5/19	水	9:30	5月例会・第1回 研修会	村上達哉 (当館学芸員)	講義「飯能市域における山岳宗教について」	15
3	6/15	火	10:00	館外研修会	村上・尾崎	子ノ権現参道を歩く	9
4	7/11	日	9:30	7月例会・第3回 研修会	柳戸信吾(当館事業 担当リーダー)	講義「近・現代の名栗村—名栗村史編 さん事業を終えて—」	8
5	7/31	土	9:00	夏休み子どもクラブ 運営	村上	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営	9
6	8/1	日	9:00	夏休み子どもクラブ 運営	村上	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営	6
7	8/5	木	9:30	夏休み子ども歴史 教室運営	村上	小学生対象の「泥めんこ、めんこを作 って遊ぼう」の運営補助	2
8	8/6	金	9:30	夏休み子ども歴史 教室運営	村上	小学生対象の「泥めんこ、めんこを作 って遊ぼう」の講師、運営補助	2
9	8/24	火	9:30	8月例会・第4回 研修会	尾崎泰弘 (当館学芸員)	講義「入間川谷口のムラの地域振興」/ 小学3年生見学対応プログラム改善	13
10	9/17	金	9:30	9月例会・研修会	熊澤孝之(生涯学習 課文化財担当)	講義「発掘調査の成果を市民に伝える 一つの試み」/部会活動	10
11	10/23	土	9:30	10月例会・研修会	柳戸信吾(当館事業 担当リーダー)	特別展「大地に刻まれた飯能の歴史」 展示解説/部会活動	11
12	11/17	水	9:30	11月例会	尾崎・村上	小学3年生見学対応プログラムを第 V期市民学芸員養成講座受講生に説明	11
13	12/14	火	13:30	12月例会	柳戸・尾崎	小学3年生見学対応準備(見学スケジ ュール、見学対応割当など)	13
14	12/15	水	9:00	「むかしのくらし」展 展示	尾崎・村上	小学3年生見学対応用展示「むかしの くらし」展設営	8
15	1/14	金	13:30	小学3年生 見学対応事前準備	尾崎・村上	石臼体験コーナーや「昔の道具調べク イズ」、紙芝居体験の会場準備	10
16	2/6	日	10:00	「火のし・炭火アイ ロン」/石臼体験	村上	小学3年生見学対応展示「民間の台所」 展示付帯事業運営	6
17	2/15	火	9:30	2月例会	柳戸・尾崎	小学3年生見学対応の反省・評価、館 外視察研修について	10
18	3/5	土	10:00	「折り紙で折る おひなさま」		「ひな飾りお宝展 in 飯能」付帯事業と して折り紙でのおひなさまづくり指導	2
19	3/6	日	10:00	「折り紙で折る おひなさま」		「ひな飾りお宝展 in 飯能」付帯事業と して折り紙でのおひなさまづくり指導	2
20	3/13	日	9:30	3月例会	尾崎	平成23年度からの活動について	13

合計のべ 172人

部会A 休日の体験学習プログラム

回	活動日	曜日	時間	内容	参加人数
1	6/12	土	9:00	「竹の水鉄砲で遊ぼう」準備、これまでの状況確認	3
2	9/4	土	9:00	「昔のおやつ「さつまだんご」を作って食べよう」準備	6
9	11/17	水	13:00	「昔のおやつ「さつまだんご」を作って食べよう」準備	4
10	12/5	日	9:30	「昔のおやつ「さつまだんご」を作って食べよう」運営	5

合計のべ 18人

部会B 小学校の教材リスト作り

回	活動日	曜日	時間	内容	参加人数
1	7/11	日	11:30	小学校の教材リスト作り	3

合計のべ 3人

部会C 小学3年生見学プログラム改善

回	活動日	曜日	時間	内容	参加人数
1	9/17	金	11:15	常設展示解説プログラムの改善	2
2	9/17	金	11:15	体験学習プログラムの改善	3
3	9/17	金	11:15	「昔の道具探しクイズ」プログラムの改善	4
4	10/5	火	10:00	「昔の道具探しクイズ」プログラムの改善	4
5	11/9	火	10:00	「昔の道具探しクイズ」プログラムの改善	3

合計のべ 16人



「夏休み子ども歴史教室」での市民学芸員による説明

市民学芸員養成講座

第Ⅴ期(博学連携参加型3期)・Ⅵ期(古文書整理型)

1. 趣 旨

第Ⅴ期(博学連携参加型3期)

平成11年度から始まった当館の市民学芸員制度は、平成22年度で11年目を迎えた。その間、博学連携参加型の市民学芸員の養成は、平成11年度に第Ⅱ期(博学連携Ⅰ期)、平成19年度に第Ⅳ期(博学連携参加型2期)として行なわれた。

第Ⅳ期市民学芸員養成の理由は、市民学芸員活動における参加人数の減少が、小学3年生見学対応の受け入れ体制に、影響を及ぼし始めたことにある。また、当館の事業展開として、子ども(未就学児を含め中学生まで)を対象とした事業の充実が課題となっていたことも挙げられる。

結果的に、第Ⅳ期市民学芸員が加わったことにより、小学3年生見学対応は新たなプログラムが追加されるなど、内容の充実がなされた。

しかしながら、依然として活動終了を表明する方が後を絶たず、モチベーションの維持が大きな課題として再認識された。また、現実的な問題として、再び人数の減少が、小学3年生見学対応の受け入れ体制に影響を与えることが懸念された。

全体的な状況としては、先述したとおり、子どもを対象とした事業は充実する方向へと変わりつつあったことから、その状況を維持するため、第Ⅴ期(博学連携事業参加型3期)市民学芸員の養成を行うこととなった。

第Ⅵ期(古文書整理型)

当館には、古文書や典籍、写真など多くの地域史料が保存されているが、このうち古文書については、目録が冊子の形で公開されている史料群は非常に少なく、多くは仮目録が作成されているだけで、なかなか利用が進まないのが現状である。

収蔵史料の価値を高め、市民の学習需要を喚起していくためには、史料整理を進め目録を刊行することと、翻刻して地域史料の必要性を理解してもら

うことが不可欠である。

以上の事柄を念頭に置き、市民が学習活動を行いながら、その成果が当館の課題解決にもつながっていくことを目的として、新たに第Ⅵ期(古文書整理型)の市民学芸員を養成することとなった。

2. 養成講座のカリキュラム

第Ⅴ期・第Ⅵ期市民学芸員養成講座のカリキュラムであるが、第1回から第6回目までは、博物館概論に関わる内容であるため合同で受講してもらった。

7回目以降は第Ⅴ期、第Ⅵ期にそれぞれ分かれテーマごとの専門研修を行った。

詳細は次ページのとおりである。

3. 成 果

第Ⅴ期市民学芸員は、小学3年生の見学対応には、1月18日(火)から2月4日(日)までの11日間に、のべ48人が参加した。加えて、12月15日(水)の民家の台所設営及び2月6日の「火のし・炭火アイロン/石臼体験」、3月5日(土)・6日(日)に実施した「折り紙でつくるおひな様」に、のべ17人が参加した。

第Ⅴ期・第Ⅵ期市民学芸員ともに、3月13日(日)に市民学芸員の認定証交付式を行った。

第Ⅴ期においては新たに11人が、第Ⅵ期においては15人(うち6人は第Ⅱ～Ⅳ期の市民学芸員として活動中)が市民学芸員として登録された。



養成講座

市民学芸員第Ⅴ期(博学連携参加型3期)養成講座カリキュラム

回	日付	曜日	開始時刻	分野	内容	講師	備考	参加人数
1	5/16	日	14:00	博物館学	日本の博物館の現状と役割	元駿河台大学教授 中川 徹氏	第Ⅵ期(古文書整理型)と合同	11
2	5/23	日	14:00	博物館学	博物館の資料について	元駿河台大学教授 中川 徹氏	第Ⅵ期(古文書整理型)と合同	12
3	6/6	日	14:00	博物館学	博物館と情報	駿河台大学教授 波多野 宏之氏	第Ⅵ期(古文書整理型)と合同	11
4	6/20	日	14:00	博物館学	博物館教育論	駿河台大学准教授 野村 正弘氏	第Ⅵ期(古文書整理型)と合同	10
5	7/4	日	14:00	博物館学	地域博物館とまちづくり	法政大学教授 馬場 憲一氏	第Ⅵ期(古文書整理型)と合同	12
6	7/25	日	14:00	博物館学	飯能市郷土館の運営方針と 市民学芸員の役割	当館学芸員 柳戸 信吾	第Ⅵ期(古文書整理型)と合同	11
7	8/22	日	8:50	館外研修会	羽村市郷土博物館体験学習会 「まゆから糸をひこう」見学	羽村市郷土博物館 松本 美虹氏		9
8	9/5	日	14:00	養成テーマ	博学連携事業のあり方	入間市博物館指導主事 篠塚 清治氏		9
9	9/26	日	14:00	養成テーマ	小学3年生とは	飯能市立東吾野小学校教諭 菱 吉信氏		11
10	10/3	日	14:00	養成テーマ	「昔の道具調べ」の学習とは	飯能市立東吾野小学校教諭 菱 吉信氏		11
11	10/24	日	14:00	実習	実務学習ガイダンス	当館学芸員 村上 達哉		9
12	11/17	水	9:30	実習	小学3年生見学対応実務実習	柳戸・尾崎・村上		8
13	12/14	火	13:30	実習	小学3年生見学対応実務実習	柳戸・尾崎・村上		8

合計のべ132人

市民学芸員第Ⅵ期(古文書整理型)養成講座カリキュラム

回	日付	曜日	開始時刻	分野	内容	講師	備考	参加人数
1	5/16	日	14:00	博物館学	日本の博物館の現状と役割	元駿河台大学教授 中川 徹氏	第Ⅴ期(博学連携参加型)と合同	9
2	5/23	日	14:00	博物館学	博物館の資料について	元駿河台大学教授 中川 徹氏	第Ⅴ期(博学連携参加型)と合同	7
3	6/6	日	14:00	博物館学	博物館と情報	駿河台大学教授 波多野 宏之氏	第Ⅴ期(博学連携参加型)と合同	6
4	6/20	日	14:00	博物館学	博物館教育論	駿河台大学准教授 野村 正弘氏	第Ⅴ期(博学連携参加型)と合同	8
5	7/4	日	14:00	博物館学	地域博物館とまちづくり	法政大学教授 馬場 憲一氏	第Ⅴ期(博学連携参加型)と合同	9
6	7/25	日	10:00	博物館学	飯能市郷土館の運営方針と 市民学芸員の役割	当館学芸員 柳戸 信吾	第Ⅴ期(博学連携参加型)と合同	6
7	8/29	日	10:00	養成テーマ	やさしい古文書講座Ⅳ①	飯能市文化財保護審議委員会 委員 浅見 徳男氏		13
8	9/5	日	10:00	養成テーマ	やさしい古文書講座Ⅳ②	飯能市文化財保護審議委員会 委員 浅見 徳男氏		15
9	9/12	日	10:00	養成テーマ	やさしい古文書講座Ⅳ③	飯能市文化財保護審議委員会 委員 島田 稔氏		13
10	9/19	日	10:00	養成テーマ	やさしい古文書講座Ⅳ④	当館学芸員 尾崎 泰弘		14
11	10/17	日	15:00	養成テーマ	地域社会とアーカイヴズ	学習院大学大学院教授 保坂 裕興氏		13
12	11/7	日	14:00	養成テーマ	史料整理論	筑波大学大学院准教授 白井哲哉氏		10
13	12/5	日	8:45	養成テーマ	埼玉県立文書館の見学	埼玉県立文書館 諸岡 勝氏・渡 政和氏		9

合計のべ132人

郷土館友の会

飯能市郷土館友の会は当館の活動を後援し、また展示、収蔵資料を通して知識を培うことを目的とする団体で、当館開館前の平成2年4月1日に発足した。年会費は500円で、会員には当館から特別展等事業の案内が送られることになっており、主催事業として、毎年7月3日の「一絃琴献奏の会」、1月の「まゆ玉づくり」及び「新春琴の調べ」をおこなっていた。

しかしながら、平成17年度から開催していた「新春琴の調べ」は、小学3年生見学対応の準備と重なること、ひなまつりに伴うミニ展示及び、収蔵品展・新収蔵品展の時期が早まったことなどから、1～3月の事業量と内容の見直しを行った結果、平成20年度の実施が最後となっている。

また、平成14年度から行ってきた「一絃琴献奏の会」は、友の会の主催による実施から、演奏者が主体となって行う形へと実施形態が変更された。そのため、友の会の主催事業としての「一絃琴献奏の会」は平成21年度をもって終了ということになった。

以上に述べたように、友の会の自主事業は平成22年度の時点で「まゆ玉づくり」一つとなり、活動規模は縮小の傾向にある。

友の会全体の状況としては、会員が高齢化する一方で世代交代がなされていないため、先に挙げたような活動規模の縮小だけでなく、納入される会費の大幅な減少という問題も浮上している。

そこで、平成20年度に会員全員に対して、このまま友の会の会員を続けるかどうかの意志確認を行った。結果として会員数は平成20年度末の段階で83人となった。

だが、会費納入のために来館された会員の方が「郷土館に来るのも結構大変で…」と話すように、会員としての継続を希望された方々においても、その多くが、来館すること自体年々難しくなってきていると推測される。

友の会はその存続について、抜本的な見直しが必要な時期を迎えている。

まゆ玉づくり

養蚕の盛んなところでは、小正月や初午などに、繭の増収を祈り米粉で団子を作り、つげの木などの小枝にさして飾った。このときに作った団子を「繭玉」といい、本市域でもかつては広くみることできた行事である。

この小正月の行事を見直し未来に伝えていくため、まゆ玉を作り、小枝にさして飾る学習会を開催している。

平成22年度における、唯一の友の会自主事業である。

日時 平成23年1月9日(日)
午後1時30分～3時30分

会場 当館学習研修室

参加者 32人

指導者 内沼須美氏ほか3名



まゆ玉づくり

博物館と学校教育との連携は、学校での「総合的な学習の時間」の導入や「地域学習」の重視から、近年多くの博物館で取り組むようになってきた。当館では、小学生の見学対応、小中学校社会科研究展、出張授業、中学生職場体験の受け入れなどを実施している。このほか、学校への資料の貸出や、地域学習の一環として児童・生徒がグループ単位で郷土館を利用することなどもあり、当館と小・中学校との距離が縮まりつつある。

しかし、近年の「総合的な学習の時間」の授業時間数の削減などから、出張授業や当館に来館しての学習はやや減少傾向にある。

小学3年生見学対応

市内の小学3年生が社会科の「昔の人々とくらし」の単元で地域学習をする中で、例年1月から2月にかけて当館を見学している。このために、当館では3つのプログラムを用意しているが、その内容の改善、準備、当日の説明や指導は市民学芸員が中心となり実施している。これまで市民学芸員の出席者確保に苦勞したが、今年は第Ⅴ期市民学芸員養成対象者も実習として加わったため、人員は比較的順調に確保できた。

準備経過・実施状況は以下のとおりである。

まず毎年9月ごろに市内小学校に見学の希望を確認、日程調整終了後、10～11月に担当の先生と打合せをして見学内容や移動手段を決めている。

児童の移動については、平成17年度からは、希望する学校には市のバスを、また、平成21年度からは一部民間からの乗合バスを借り上げて児童の送迎を行なっている。その結果、路線バスの出発時間を心配する必要がなくなり、当館での学習時間が十分に取れるようになった。

見学当日は、通常、クラスを複数の班に分け、同時並行で行なわれている3つのプログラムをそれぞれ異なる順序で巡り、決められた時間枠の中で、すべてのプログラムが体験できるように予定を組ん

でいる。

しかし、少人数の学校の場合は、全員で各プログラムを一つずつ行なうため、市民学芸員の手が空いてしまう。それを防ぐためと、バスでは全員が一度に来館出来ない学校の見学を、クラス毎で何回かに分ける必要から、学校の理解の上、同日に二校で一緒に見学してもらうことを平成20年度から始めた。

3つのプログラムの内容は以下のとおりである。

①常設展示見学

3つの説明・体験のうち、2つを選択してもらっている。一つは常設展示の「乱世に生きぬく(中世)」のコーナーにおける、長光寺雲版と常楽院の軍荼利明王立像を中心とした国指定重要文化財の説明、二つ目は「山地のくらし(民俗)」のコーナーにおける西川材(林業)に関する説明、三つ目は「平地のくらし(民俗)」のコーナーにおける、昔の子どもの遊びの解説と紙芝居の体験である。

②むかしの道具さがしクイズ

学習研修室に20点の民具を4箇所に分けて置き、児童は最初にそれら全てを観察したり触れたりした後、その中から「洗濯」、「炊事」、「学校生活」、「暖房」に使う道具を見つけるといったクイズ形式の学習である。最後に児童に正解を伝え、道具の使い方を説明する。



常設展示室での紙芝居体験



むかしの道具さがしクイズ

③体験学習

石臼と昔のアイロンの体験を行う。
石臼体験は休憩コーナーに設置した石臼台で、児童が米と大豆を挽き、粉にする。
昔のアイロンの体験では、児童は特別展示室

に農家の台所を再現した「民家の台所」の板の間に上がり、火のしと炭火アイロンを体験する。アイロン体験を待っている時間は、土間部分にある水場やかまど、昔の農具などを自由に見学することができる。

小学3年生見学対応一覧

回	実施日	学校名	クラス数	児童数	交通手段	到着時刻	出発時刻	滞在時間(分)	対応市民学芸員数	常設展示選択	備考
1	1/18(火)	南高麗小	1	19	市バス	9:15	11:53	158	16	文化財・紙芝居	
		精明小	1	39	市バス・市庁用車	9:06	11:53	167		紙芝居・西川材	
2	1/20(木)	飯能二小	1	17	市バス	9:05	11:52	167	13	文化財・紙芝居	
		加治小(1)	1	38	市バス・館庁用車	9:08	11:52	164			2日間に分けて実施
3	1/21(金)	加治小(2)	2	68	市バス・借上乗合	9:07	11:55	168	14	文化財・紙芝居	2日間に分けて実施
4	1/25(火)	富士見小	2	72	市バス・借上乗合	9:10	11:55	165	11	文化財・紙芝居	
5	1/26(水)	飯能一小(1)	1	32	徒歩	9:05	11:44	159	14	文化財・紙芝居	3日間に分けて実施
		東吾野小	1	16	市バス	9:03	11:44	161		紙芝居・西川材	
6	1/27(木)	飯能一小(2)	2	62	徒歩	9:07	11:48	161	10	文化財・紙芝居	3日間に分けて実施
7	1/28(金)	飯能一小(3)	1	32	徒歩	9:05	11:45	160	14	文化財・紙芝居	3日間に分けて実施
		西川小	1	10	市バス	8:55	11:45	170		紙芝居・西川材	
		名栗小	1	19	市バス	9:08	11:45	157		紙芝居・西川材	
8	2/1(火)	原市場小	2	49	市バス2台	9:17	11:52	155	14	文化財・紙芝居	
9	2/2(水)	双柳小	2	77	市バス・借上乗合	9:04	11:44	160	11	文化財・紙芝居	
10	2/3(木)	加治東小	1	38	市バス2台	9:05	11:50	165	12	文化財・紙芝居	
11	2/4(金)	美杉台小	3	96	徒歩	9:15	12:07	172	15	文化財・紙芝居	

合計 13校 児童合計 684人

対応市民学芸員のべ 144人

飯能市小・中学校社会科研究展

1. 趣 旨

小中学校では、比較的時間に余裕がある夏期休業中に社会科の自由研究を課すところが多い。ところが、理科や技術家庭、美術科においては作品が県展、全国展へ出品される機会が設けられているが、社会科においては同様の機会がないのが現状である。しかし、児童生徒の地域研究の意欲は強く、中には研究の質として高いものも見受けられる。このような作品を公共の場で市民に公開し、評価していただく場を設けることは大きな教育的効果が期待できるため、平成10年度より行っているのが本事業である。

当初は中学生だけが出展していたが、平成13年度より対象を小学生まで広げた。例年、作品を出した

児童生徒には、賞状と参加賞を渡しているが、13回目にあたる今回より、出展された研究の中から、館長賞及び学芸員賞を選ぶこととした。

ただし、今回は研究の内容が他の教科にあたると思われるものや、資料を綴じただけで研究とはいえない作品なども出展されるなど、これまでにない課題が見られた。そこで、年度末には共催団体である社会科主任会でそれについて検討する場をもった。

また、仕事帰りの保護者が見学できるように、展示期間中は開館時間を2時間延長して午後7時まで開館したが、この時間帯の見学者は14日の会期全体で76人であった。

2. 展示概要

期 間 平成22年9月11日(土)～26日(日)

開館日数 14日間

入館者数 1,456人(1日平均104.0人)

展示点数 小学生 140点(140人)

中学生 45点(45人)

- ・児童・生徒ならではのユニークな視点や工夫が見られる。
 - ・調査結果がわかりやすくまとめられている。
- 以上に該当する作品で小・中学生合わせて4点まで。

※特別賞の基準は以下のとおりとした。

○館長賞

学芸員賞候補作品のうち最も優れたもので、小・中学生1研究ずつ。

○学芸員賞

- ・地域を対象としている。
- ・聞き取り調査やフィールドワークなどによって自らが足を使って得た情報が含まれている。



展示風景

出張授業

市内の小中学校からの依頼により、当館学芸員が学校に向いて授業を行う出張授業も、学校と連携した重要な事業である。児童・生徒が地域学習をする中で、地域のことを専門に調査研究している学芸員から話を聞くことは、子どもたちの関心を高める効果が大きい。

授業の内容としては、地域学習のための導入として地域の歴史の概要や調べ方を説明するものが多い。それ以外にはフィールドワーク、実物資料を使った

授業などもある。毎年同じテーマでの授業を求められるが、内容については児童・生徒の反応等を参考にしながら、教材を替えるなどして適宜改善に努めている。

課題としては依頼する学校が偏っていること、中学校からの依頼が比較的少ないことなどが上げられる。この点については教員の研修会や校長会などの場でできるだけ利用を促進するように呼びかけるなどの対策を行っているが、大きな改善には至っていない。

出張授業一覧

No.	実施日	学 校 名	学年	科目	テーマ	内容	担当	人数
1	5/25(火)	美杉台小学校	6	総合	縄文土器の製作体験	縄文土器について解説をしたあと、実物を参考にしながら粘土で縄文土器を作成した。	村上	101
2	5/20(木)	第一小学校	5	総合	飯能市の民話・方言について	総合的な学習の導入として学校周辺の「古いもの」と方言について概要を説明した。	柳戸	136
3	7/1(木)	美杉台小学校	6	総合	縄文土器の焼成体験	5月25日に各自製作した土器を校庭で焼成する指導をした。	村上	101
4	6/25(金)	加治小学校	3	総合	「加治のよいところ」	加治地区の古い写真や地域にある石仏、寺社などについて解説した。	村上	103
5	10/5(火)	第一小学校	4	社会	宮沢湖の開拓について	宮沢湖ができるまでの経緯や工事の様子を説明した。	柳戸	115
6	10/5(火)	加治東小学校	4	社会	宮沢湖の開拓について	宮沢湖ができるまでの経緯や工事の様子を説明した。	柳戸	32
7	10/8(金)	加治東小学校	4	社会	宮沢湖の現地説明 (フィールドワーク)	社会科見学に一時随行し、宮沢湖堰堤で水路等の説明をした。	柳戸	32
8	11/17(水)	西川小学校	4	社会	郷土を開く 宮沢湖の開発	宮沢湖ができるまでの経緯や工事の様子を説明した。	柳戸	8
9	3/4(金)	美杉台小学校	3	総合	「飯能市のたからもの」	総合学習で、当該テーマを選んだ児童に対し、飯能市の指定文化財について解説した。	尾崎	17

合計 のべ 645人

来館しての学習

当館の学芸員が学校に出向いて行うのが出張授業であるのに対し、それとは逆に、学校の児童・生徒が来館し学習することもある。その代表的なものは毎年1～2月に実施している小学3年生見学対応であるが(31ページ参照)、それ以外にも次表のような学習があった(調べ学習等のた

めに数人で来館した見学やレファレンス等は除く)。来館しての学習は、出張授業と比べるとより多くの収蔵資料や展示資料を活用できる利点がある。ただし、移動の方法で問題があるためか、今年度は1回のみだった。

来館しての学習

No.	実施日	学 校 名	学年	科目	テーマ	内容	担当	人数
1	10/19(火)	南高麗小学校	3	社会	飯能市の林業について	シンボル展示「筏」を使って西川材の歴史を説明し、西川林業の道具についてのクイズを行った。	尾崎・村上	19

合計 19人

中学生社会体験チャレンジ

飯能市内の中学校では、中学1年生の生徒が、仕事の厳しさや働く喜びなどを学ぶために、市内の事業所や公共機関等で3日間、職場体験をする「中学生社会体験チャレンジ事業」を実施している。

当館でも毎年生徒を受入れ、博物館の業務を体験してもらっている。外から見ただけではわ

からない裏方の作業を体験することにより、その大変さや喜びを実感してもらうだけでなく、当館の役割や学芸員の仕事内容を伝えることにも役立っている。

今年度は初めて、ろう学校の生徒を受け入れたが、意志疎通は筆談等で十分可能で、トラブルもなかった。

中学生社会体験チャレンジ受入

No.	実施日	学 校 名	人数	内 容
1	8/26(木)・27(金)	坂戸ろう学園	1	館内外の清掃、借用古文書の返却、図書・ビデオ等収蔵資料の確認、資料の整理など
2	11/17(水)～19(金)	加治中学校	4	館内外の清掃、山手文書庫の整理・清掃、名栗資料室の民具整理など
3	11/30(火)～12/2(木)	原市場中学校	2	館内外の清掃、寄贈資料の調査、歴史公文書の整理、民具の整理など
4	12/7(火)～12/9(木)	飯能西中学校	3	館内外の清掃、小学3年生見学用学習ノート作成、民具整理など
5	1/25(火)～1/27(木)	飯能第一中学校	3	小学3年生見学対応補助、名栗資料室の民具整理、「蘭玉」かたづけなど

合計 13人

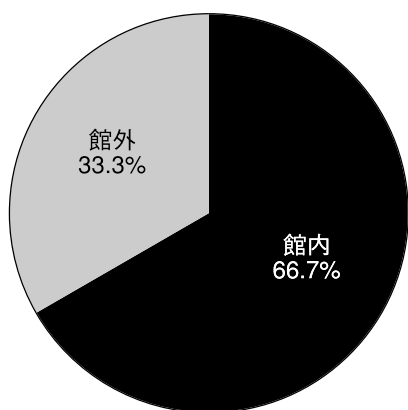
収蔵資料の利用（閲覧・貸し出し）

当館では、民具、古文書、古写真やビデオ、書籍などの飯能市に關係するものを中心に様々な資料を収蔵している。これらの資料は展示会や講座、学習会などに利用するだけでなく、資料を傷めない範囲で市民や団体等に利用していただいている。利用の方法としては館内での閲覧と館外への貸し出しがある。平成22年度は129件の申請があった。

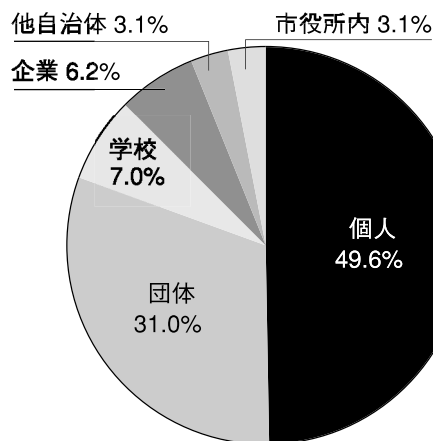
利用者の内訳を見ると、個人による調査研究や地域学習を目的とするものが最も多く5割弱を占める。次いで団体の利用が3割である。団体の利用は昨年度の2割弱に比べ増加しており、これは古文書同好会や古文書勉強会などの館内でのサークルでの利用やその他の団体の利用が増えてきたことによる。企業、学校などの利用は1割以下で、例年と同様の傾向である。今後、学校での利用の増加を働きかけていきたい。

利用資料の種別では古文書類の利用が最も多く、これは先にあげた古文書同好会、古文書勉強会といったサークル活動のテキストとして使用しているためだが、それ以外に平成20年度に『武蔵国高麗郡矢嵐村中村家文書目録』を刊行してからは、中村家文書の利用が増えている。目録の刊行が利用の促進につながる事例と言えよう。書籍、写真の利用がこれに次ぎ、近年、中でも古写真の利用が増える傾向にある。

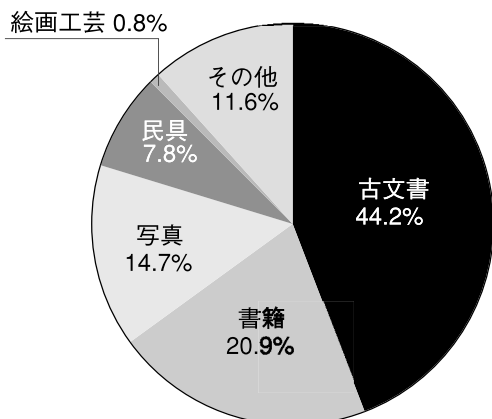
◎利用方法別内訳



◎利用者別内訳



◎利用資料種別内訳



平成22年度資料利用一覧

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
1	写真「天覧山下グラウンドと覧山荘」ほか	2	飯能吹奏楽研究会	演奏のための資料	4/3
2	堀越家文書「大正三年スクラップブック」ほか	60	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	4/18
3	写真「架線搬出」	3	(株)日テレ・アックスオン	番組内で放映	4/20～5/8
4	写真「木炭の搬出」、「高山にて木材搬出」ほか	6	(株)日テレ・アックスオン	番組内で放映	4/22～5/8
5	中村家文書「御公用書写」ほか	35	個人	研究	5/2
6	レコード「名栗川筏唄」、「武蔵野炭坑小唄」ほか	3	飯能ケーブルテレビ	民謡収録の音源	5/11～5/15
7	中村家文書「東京韮山県御廻状写」ほか	23	個人	研究	5/12
8	中村家文書、旧加治村役場文書	39	個人	研究	5/13
9	須田家文書「丁未日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	5/14
10	須田家文書「丁未日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	5/15
11	堀越家文書「湖月商標入り掛紙」ほか	29	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	5/16
12	写真「美杉台造成中(空撮)」	1	美杉中学校開校十周年記念行事準備委員会	記念誌へ掲載	5/24～5/31
13	カセットテープ「飯能音頭2005」、「埼玉県歌」	2	個人	曲の聴取	5/28～6/4
14	『飯能の民謡』	1	個人	歌詞の確認	5/28
15	カセットテープ「飯能筏唄」、「飯能白ひき唄」ほか	5	飯能第二民児協	研修旅行で紹介	6/3
16	月報「名栗川」、『埼玉県史』別巻4	2	個人	研究	5/29
17	写真「川越バスと車掌さん」	1	日高市商工会	広報誌へ掲載	6/3～6/30
18	写真フィルム「朝日稲荷神社絵馬」	1	毛呂山町歴史民俗資料館	新毛呂山町史へ掲載	6/5～6/15
19	「西川林業の道具」解説パネル、洗濯板	2	駿河台大学野村ゼミナール	ゼミナール展示で使用する資料の確認	6/5
20	堀越家文書「新銘仙見本切れ」ほか	52	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	6/13
21	写真フィルム「振武軍旗」	1	毛呂山町歴史民俗資料館	新毛呂山町史へ掲載	6/17～6/30
22	須田家文書「丁未日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	6/19
23	写真「武蔵野鉄道横手停車場新築落成記念」	1	(株)美和企画	週刊「歴史でめぐる鉄道全路線」へ掲載	6/30～7/15
24	ビデオテープ「飯能地方のうちおり」	1	個人	研究	7/4～8/3
25	写真「実業団野球チーム記念」	1	個人	プリントして所持	7/4
26	写真「筏流し」	1	東吾野まちづくり推進委員会	講演会資料	7/6～7/22
27	須田家文書「丁未日記」	1	個人	研究	7/10
28	洗濯板、たらい、羽釜、ほうろく、唐楸、間刈鎌	6	駿河台大学野村ゼミナール	館内で展示	7/10～7/26
29	堀越家文書「売渡証」ほか	45	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	7/11
30	『原市場の地名と屋号』	1	個人	研究	7/15
31	須田家文書「丁未日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	7/23
32	須田家文書「丁未日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	7/24
33	『写真でたどる飯能市の50年』、『入間川の橋』	2	個人	夏休み自由研究	7/27
34	『小岩井渡場遺跡概報』	1	個人	レポート作成	7/27
35	『入間川の橋－2』	1	個人	夏休み自由研究	8/3
36	『飯能の水とくらし』	1	個人	夏休み自由研究	8/5
37	『学校要覧』、『飯能昭和史年表』ほか	4	個人	夏休み宿題	8/6
38	『入間川の橋－2』	1	個人	夏休み宿題	8/8
39	堀越家文書「流行色見本」ほか	39	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	8/8
40	『入間川の橋－2』	1	個人	夏休み宿題	8/12
41	『飯能人物誌』	1	個人	夏休み宿題	8/13
42	ランプほか民具	28	社会科副読本編集委員会	社会科副読本編集作業のため撮影	8/13
43	写真「筏流し」ほか	7	県立松山女子高等学校放送部	放送コンクール出品作品撮影	8/18～10/15

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
44	『入間川の橋-2』	1	個人	夏休み宿題	8/19
45	内田晃絵画「建物B」、「房州風景」	2	飯能市議会事務局	議長室壁面に展示	8/20~10/29
46	平沼宏之家文書	42	個人	研究	8/21
47	『名栗村史研究2 那栗郷』	1	個人	研究	8/21~8/31
48	平沼宏之家文書	42	個人	研究	8/22
49	中村家文書「村入用諸掛覚帳」ほか	30	個人	研究	8/22
50	中村家文書「地引帳」ほか	6	個人	研究	8/22
51	加治村役場文書「古社寺調」ほか	22	個人	研究	8/22
52	浅見家文書、双木家文書	6	個人	研究	8/22
53	『広報はんのう特集号(昭和53年11月)』	1	個人	夏休み宿題	8/22
54	浅見家文書「鉄砲御改ニ付書上申候」ほか	44	個人	研究	8/23
55	中村家文書「学校資金取調帳 高麗郡矢嵐村」ほか	21	個人	研究	8/24
56	中村家文書「人別掛取立帳」ほか	18	個人	研究	8/24
57	中村家文書「川除御普請目論見帳控下書」ほか	20	個人	研究	8/24
58	中村家文書「正副戸長選挙方法」ほか	28	個人	研究	8/24
59	『飯能の伝説』	1	個人	夏休み宿題	8/24
60	双木家文書「秩父事件」ほか	7	個人	研究	8/24
61	『入間川の橋-2』	1	個人	夏休み宿題	8/27
62	民具写真「だしすくい」「国民服」ほか	13	(有)データワールド	「ポプラディア情報館 昔の道具」に掲載	8/27~9/29
63	『入間川の橋-2』	1	個人	夏休み宿題	8/28
64	『入間川の橋-2』	1	個人	夏休み宿題	8/28
65	定点撮影プロジェクト写真展「身近な風景」ファイル	1	個人	夏休み宿題	8/31
66	『精明村史稿』	1	精明郷土史研究会	研究	9/1
67	飯能戦争砲弾ほか	8	個人	研究	9/2
68	『くずし字用例辞典』ほか	3	個人	研究	9/3
69	須田家文書「丁未日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	9/4
70	火のし、手回し洗濯機	2	所沢市立三ヶ島小学校	社会科授業	9/5~9/19
71	岩田富之助写真資料カード	474	個人	調査	9/5
72	『写真でたどる飯能市の50年』、『入間川の橋-2』	2	個人	自由研究	9/11
73	八幡神社文書原舟月関係史料	28	飯能市教育委員会生涯学習課	調査	9/18
74	須田家文書「丁未日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	9/18
75	堀越家文書「織物製造帳」ほか	227	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	9/19
76	中村家文書「矢嵐村差出明細帳控」	1	古文書を読む会	学習テキスト作成	9/26
77	須田家文書「丁未日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	10/2
78	千歯抜き	1	はんのう市民環境会議	稲の脱穀体験	10/8~10/31
79	防空頭巾、雑のう、帽子ほか	6	東吾野小学校	国語の授業	10/6~10/31
80	須田家文書「丁未日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	10/9
81	写真「筏流し」	1	加藤木材工業(株)	全国建具組合連合会で発表	10/12~10/16
82	平鍬、スコップ、タガネ、金槌など	6	飯能第一小学校	社会科の授業	10/26~10/28
83	『天文大先生 千葉歳胤のこと』	1	虎秀やまめクラブ	虎秀マップの作成	10/22
84	「武州高麗領下我野之内平戸村虎秀村五人組帳」など	9	個人	研究	10/26
85	須田家文書「丁巳萬用日記録」	1	古文書同好会	学習テキスト作成	10/28
86	名栗小学校旧校舎写真(東小・中央小・西小)	3	名栗小学校	学校ホームページに掲載	11/1~11/14

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
87	須田家文書「丁未日記」	1	古文書同好会	コピー不鮮明箇所確認	11/5
88	中村家文書「武蔵国高麗郡矢嵐村申御繩水帳」ほか	56	個人	研究	11/6
89	『入間市史 近代資料編Ⅰ』ほか	10	個人	研究	11/7～12/26
90	中村家文書「武蔵国高麗郡矢嵐村申御繩水帳」ほか	31	個人	研究	11/12
91	中村家文書「田方御水帳写」ほか	24	個人	研究	11/13
92	加藤衛拡家文書「下名栗大絵図」ほか	5	個人	研究	11/14～12/25
93	堀越家文書「建物変更登記申請書」ほか	17	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	11/14
94	須田家文書「丁巳萬用日記録」	1	古文書同好会	勉強会で閲覧	11/19
95	レコード「飯能銀座小唄」、「加治音頭」ほか	3	飯能ケーブルテレビ	民謡収録の音源	11/25～11/26
96	写真フィルム「大河原八耳堂絵馬」	1	府中市郷土の森博物館	特別展印刷物に掲載	12/1～3/8
97	『飯能の民謡』	1	ニーハオ太極拳	飯能音頭の練習	11/28
98	「飯能町上水道竣工記念帳」	1	東吾野小学校	飯能市副読本製作	11/28～12/10
99	写真フィルム「耳栓」「装身具」「耳飾り」	3	富士見市立水子貝塚資料館	企画展図録に掲載	12/1～12/15
100	中村家文書「役用日誌帳」ほか	10	個人	研究	12/4
101	須田家文書「丁巳萬用日記録」	1	古文書同好会	勉強会で閲覧	12/4
102	写真「飯能河原観光堰、水遊びの賑わい」	1	個人	調査	12/5
103	中村家文書「高麗郡矢嵐村五人組帳」	1	古文書を読む会	学習テキスト作成	12/5
104	中村家文書「小学校諸費賄方誌帳」ほか	115	個人	論文執筆	12/11～12/12
105	『所沢市史 近代史料Ⅰ』	1	個人	研究	12/13～12/25
106	『ゼンリン住宅地図』	6	(株)リオ	地歴調査	12/14
107	『所沢市史 上』	1	個人	研究	12/18～1/9
108	須田家文書「丁巳萬用日記録」	1	古文書同好会	勉強会で閲覧	12/15
109	加藤衛拡家文書「高反別帳」ほか	48	個人	研究	12/27～3/31
110	須田家文書「丁巳萬用日記録」	1	古文書同好会	勉強会で閲覧	1/8
111	カセットテープ「名栗川筏唄」「飯能筏唄」「飯能小唄」	3	たんぼぼ田園クラブ	鑑賞	1/16
112	写真「農協・精明支店前にあった山王の松」ほか	14	飯能市教育委員会生涯学習課	文芸飯能31号に掲載	1/14～3/31
113	館内展示風景	1	個人	レポート作成	1/15
114	堀越家文書「布見本帳」ほか	14	織研ねこまた	所沢織物関係資料調査	1/16
115	『明治神宮の出現』	1	独立行政法人 都市再生機構	あさひ山展望公園案内板設置	1/21～2/20
116	ひな人形	2	絹甚運営委員会	雛飾りお宝展 in 飯能で展示	2/1～4/3
117	島田稔家文書「なぐり村の歴史について」ほか	25	個人	調査研究	2/8
118	ひな人形	2	個人	雛飾りお宝展 in 飯能で展示	2/9～3/18
119	図録『西川林業の道具』pdf ファイル	1	飯能市役所農林課	パネル作成	2/10～4/23
120	カセットテープ「新名栗川小唄」ほか	14	個人	ダビングして鑑賞	2/18
121	くだまき	1	美杉台小学校	国語の教材	2/22～3/1
122	須田家文書「丁巳萬用日記録」	1	古文書同好会	勉強会で閲覧	2/26
123	レコード「飯能まつりばやし」、CD「南高麗音頭」	2	みんなようネットワーク飯能	学習会で使用	3/1～3/8
124	須田家文書「丁巳萬用日記録」	1	古文書同好会	勉強会で閲覧	3/5
125	平沼宏之家文書「香奠見舞帳」ほか	16	個人	研究	3/19
126	平沼宏之家文書「出産祝受領」ほか	30	個人	研究	3/20
127	広告媒体調査カード(引札)	1	個人	調査研究	3/20
128	須田家文書「丁巳萬用日記録」	1	古文書同好会	勉強会で閲覧	3/26
129	加藤衛拡家文書「高反別帳」ほか	48	個人	研究	3/29～5/31

施設の利用

飯能市郷土館条例施行規則第4条では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

平成22年度は、駿河台大学による特別展示室の利用があった。図書室の団体利用はなかった。

学習研修室は、講座・学習会や定点撮影プロジェクト、市民学芸員といった交流事業など当館の主催事業のほか、飯能の歴史や地域文化の振興に関わる学習活動を行っている団体、サークルに利用されている。その他、団体での見学者や市内の小学生の見学、他の市町村からの視察の対応などにも使用されている。

学習研修室利用実績

利用種別	年度	平成20(2008)年度		平成21(2009)年度		平成22(2010)年度	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数
団体等の利用	恒常的活動(学習サークル)	86	1,233	77	1,106	76	1,109
	見学・閲覧	9	263	9	110	17	147
	他団体の主催事業等	19	424	13	265	24	295
	小計	114	1,920	99	1,481	117	1,551
郷土館の主催事業		66	1,238	75	1,349	125	1,569
合計		180	3,158	174	2,830	242	3,120
年間利用日数		152日		140日		195日	

◎主な活動団体

古文書同好会・古文書勉強会・飯能郷土史研究会・多聞の会・石仏談話会・ずいひつの会・飯能市郷土館友の会・みんなネットワーク飯能

◎平成22年度末現在で活動している学習サークル

古文書同好会

設立 平成3(1991)年4月
 目的 飯能市内の古文書の解説と時代背景の研究及びその活字化。
 代表者 中里 和夫
 会員数 16人
 活動 毎月第1・3土曜日

石仏談話会

設立 平成7(1995)年1月
 目的 石仏を通してその時代背景や歴史、文化を学ぶ。
 代表者 不在
 会員数 14人
 活動 第2金曜日に活動(学習会と見学会)

古文書勉強会

設立 平成18(2006)年12月
 目的 飯能市内の古文書の解説をとおして歴史を知る。
 代表者 不在
 会員数 7人
 活動 毎月第2・4土曜日

飯能郷土史研究会

設立 昭和48(1973)年7月
 目的 郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する。
 代表者 坂口 和子
 会員数 82人
 活動 年6回の例会

多聞の会(仏教美術学習会)

設立 平成6(1994)年11月
 目的 仏像・仏画・仏教建築など仏教及び仏教美術について広く学習する。
 代表者 綾部 光芳
 会員数 27人
 活動 8月を除く毎月第3木曜日に例会(うち見学会3回)

みんなネットワーク飯能

設立 平成8年(1996)年
 目的 民踊をとおして心身の健康を高めるとともに、見聞を広め、郷土の文化を継承する。
 代表者 石井 英子
 会員数 30人
 活動 不定期

レファレンスの対応

当館には、窓口や電話、電子メールによる様々な問い合わせがある。その内容は、観光情報や文化財の所在地といったその場で答えられるものから、史料の有無や地域の歴史掘り起こしなど回答に時間がかかるものまで様々である。このうち、調査を行った場合は、その経過や回答内容などを「レファレンス対応記録票」に記入している。その理由は、それが特別展のテーマや調査活動に発展する可能性があるためと、同じような問い合わせがあった場合の時間や作業の無駄を省くためである。平成22年度にてレファレンス対応記録票に記入された内容は下表のとおりである。

また、平成18年度からは、それ以外のその場で答えられる内容の問い合わせについては、その件数を把握するために窓口と電話の傍に「件数記録票」を置き、対応の都度記入することとした。その集計結果は右表のとおりである。

これによれば、窓口が8割で電話が2割、1件あたりの平均対応時間は窓口、電話とも約6分だった。照会者は一般が80%、次いで子ども(小・中学生)が16%を占める。子どもからの問い合わせは、特に夏休みの8月に集中しているが、一般の場合は、特に集中する時期は見られなかった。

レファレンス対応件数

照会者	窓口	電話	合計
一般	105	27	132
子ども	26		26
市職員・議員		4	4
学校教員	1		1
その他		2	2
合計	132	33	165

レファレンス対応記録一覧

No.	照会日	内 容	回答日	照会者	手段
1	3/31	当館所蔵の助郷関係史料の存在について	4/10	研究者	E-mail
2	6/1	「むかしの飯能29」に出てくる江戸時代の建築関係史料について	6/3	研究者	E-mail
3	6/10	白木正一画伯の収蔵作品について	6/10	出版社	電話
4	3/26	八王子市川口町の熊野神社本殿を建てた小春戸村宮大工須田小三郎について	6/20	一般	E-mail
5	7/6	原市場のじゃかいもを川越藩主に献上したという話が伝わっているが資料はあるか	7/10	市職員	電話
6	7/14	書籍『飯能天覧山、山麓の英魂』の有無について	7/14	一般	電話
7	8/7	岩殿観音窟に関する資料、平面図等の有無について	8/11	研究者	E-mail
8	7/5	「苜場坂峠」の表記及び呼び方について	9/5	一般	E-mail
9	9/15	南の御霊神社の由緒について(特に長尾氏との関係)	9/17	一般	電話
10	9/22	ブナ峠のブナの所在について	9/22	一般	電話
11	8/26	「外道」、西川材、ナンジャモンジャなどについて	10/15	一般	E-mail
12	10/21	武蔵野鉄道開通前の、東京から国分寺・入間川経由の飯能までの所要時間について	10/21	小学校教員	電話
13	11/5	笠縫□□番地に以前お堂などが建っていたかどうか	11/5	市職員	電話
14	10/27	西川地方と江戸とのつながりを示す文書の所在について	11/8	一般	来館
15	11/26	畑時能の甥「快舜」が軍功死した時の年齢などについて	12/22	一般	手紙
16	12/13	昭和25年2月28日に現在の丸広百貨店跡地付近で起こった火事について	12/28	企業	E-mail
17	1/9	近世前期の代官、高室氏に関する文書はないか	1/13	一般	来館
18	1/21	朝日山(大河原)の由来などがわかる資料はないか	2/6	都市再生機構	来館
19	1/30	『飯能の石造遺物』179ページに掲載されている愛宕山の道標の位置	7/9	一般	来館
20	3/18	剣術家柏木代八の子孫の有無と名栗道場の場所、剣術家秋山要助に関する資料の有無について	3/20	一般	電話

当館に対しては、他の団体や機関から講師派遣や原稿執筆の依頼がある。この講師派遣の件数や依頼内容についても、地域の文化・歴史を調査・研究する機関としての当館の存在価値を測る、バロメーターとの一つと言える。

なお、講師派遣のうち学校からのものは「博学連携」の出張授業の項(33ページ)に掲載してあるため、それ以外のものについて示すと、下記のとおりとなる。

講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内 容	対象者	人数	会 場	担当学芸員
1	4/7(水)	11:00~12:00	飯能市役所職員課	新規採用職員研修「飯能の地理と歴史」	新規採用職員	18	飯能市役所	柳戸
2	4/17(土)	14:30~16:00	精明郷土史研究会	精明郷土史研究会総会記念講演会「飯能市の写真史」	精明郷土史研究会会員	29	双柳公民館	尾崎
3	4/25(日)	10:20~11:15	永田和会	出前講座「永田の歴史と飯能戦争」	永田和会会員	21	永田自治会館	尾崎
4	7/30(金)	9:00~12:00	飯能市教育センター	飯能市2年次教員研修会「飯能の歴史と文化」・「郷土館と学校との連携について」・常設展示と収蔵庫見学	小中学校2年次教員	11	当館学習研修室・常設展示室・収蔵庫	柳戸
5	8/24(火)	13:00~16:30	飯能市教育センター	「はんのう・探検・発見・体験」研修会「飯能の歴史と文化」・「郷土館と学校との連携について」・常設展示と収蔵庫見学	今年度初めて飯能市に転入した教職員	13	当館学習研修室・常設展示室・収蔵庫	柳戸
6	11/14(日)	14:10~15:05	本郷ムササビ会	出前講座「飯能今昔物語(大河原・永田地区の歴史)」	本郷ムササビ会会員	25	求道塾空手道場(大字永田)	尾崎
7	12/9(木)	15:00~16:30	飯能市校長会	飯能市校長研修会「郷土館の利用について」・常設展示と収蔵庫見学	飯能市内小中学校長	22	当館学習研修室・常設展示室・収蔵庫	柳戸
8	1/15(土)	13:30~15:30	所沢市生涯学習推進センター	所沢市市民学芸員養成講座「地域博物館に学ぶ(2)」	講座受講生	35	所沢市生涯学習推進センター	柳戸
9	2/13(日)	15:00~16:00	通式丁目親和会	お祭り講習会「飯能市街地の成り立ちと歴史」	一般	38	二丁目クラブ	尾崎
10	3/11(金)	10:00~11:00	狭山市富士見公民館	文化財めぐり「飯能市街地周辺の文化財」	一般	8	当館学習研修室・常設展示室・収蔵庫	柳戸

合計のべ 220人

収 集

当館はモノ資料やそれに関する情報を通して、市民が地域の歴史や文化について学習するための社会教育機関である。その使命を果たすためには、モノ資料を収集し保存することが不可欠である。収集の多くは市民からの寄贈によっているが、それは資料寄贈申請書(施行規則様式第5号)の提出とそれに対する資料受領書(同様式第7号)の交付によってなされ、そこで初めて当館の所蔵となる。

収集の手段としては、この他に市役所内各課・施設、機関からの移管や、購入もある。このようにして収集した資料は、市民の財産として永遠に保存、管理していくために整理作業へと移される。

寄贈資料

寄贈資料

(敬称略)

No.	資料名	数量	寄贈者名
1	昭和11年種痘済証など	9点	森口 彰徳
2	マント、防護団はっぴ、刺子	4点	関根 安造
3	写真「市制30年双柳上空から」、「八高線SL D51 平成元年8月5日」、「多峯主山上空より市内」	3点	匿名個人
4	DVD「飯能地方の"みんな"と情景」	2点	石井 英子
5	盆棚・掛け軸、文書	7式	朝日 隆一
6	「飯能町小山屋本店」紙袋	1点	石田 晃浩
7	DVD「奥武蔵"みんな"物語(シリーズ②)ー仕事唄と踊りー」	2枚	石井 英子
8	古写真	3点	古谷 昌子
9	角樽	1点	内野 博司
10	福島座関係資料、錦屋、花柳界の手拭いなど	27点	安倍 布満樺
11	飯能祭り囃子	1点	石井 英子
12	「揖滴帳」など手本	6点	須田 正史
13	古文書、火のし、コテ、クギヌキ、算盤、マエビキノコ、カワマワシ、木銃、長刀	12点	大沢 達雄
14	防空頭巾	1点	西久保庸子
15	B29の銃撃を受けた縁側の天井板、縁こ板、B29の銃弾	3点	落合 久明
16	CD「飯能祭り囃子」	2点	石井 英子
17	古文書	72単位	中村 正幸
18	古文書、お札、アセチレンガス灯、第六分団旗など	32単位	加藤 樹
19	矢島英一氏撮影写真プリント・ネガ	10箱	矢島智代美
20	古文書、賞状、写真、ろうそく立て、鑑札、かざりもの、かんざし、馬具の修理用具	15単位	中山 郁夫
21	8mmビデオ映像「昭和30年代前半の入間川」	1点	久保田 栄
22	「作付反別帳」、ツキグワ	3点	滝田 輝江
22	ユタンボ、鐘(南川小で使用)、剣道着、カナダライ	4点	匿名個人
24	飯能第二小学校日誌(明治32~平成17)、開校百年祭関係書類、板碑、第二分団「防空当番」木札など	172点	飯能市立第二小学校
25	第十三・十四両区字限切絵図	1点	島田 均
26	DVD「奥武蔵みんなよう物語」(記録文集、背景集含む)	2セット	みんなネットワーク飯能
27	古文書	142点	吉田 一博
28	写真「飯能祭りの芸者さん」	1点	匿名個人
29	学校日誌(昭和57~平成16)、航空写真パネル	39点	双柳小学校
31	台紙付写真「小林材木店新築記念」	1点	市川 廣一
30	武蔵野鉄道株券	1点	小川 尚武
32	旗「婦人会吾野支部」、記念文集、扇子、古写真	7点	吾野婦人会
33	記録「小床橋架設替へ・道路整備・自治会館新築記録」	1点	浅見 博助

購入資料

平成22年度に、下記の資料を購入した。

- ①「入間馬車鉄道株式会社仮株券」(明治32年7月15日)
- ②「飯能地方絵図[埼玉県第四区絵図]」(明治初期?)



飯能地方絵図[埼玉県第四区絵図] (部分)

整理（情報化）

当館が収集した飯能市の歴史や文化に関する様々なモノは、そのままでは博物館の資料とはなりえない。「整理」とは、資料についての情報を整理し利用可能なものにする作業で、この過程では様々な記録が作成される（ドキュメンテーション）。42ページのところで触れた資料寄贈申請書などもそのひとつである。

当館の場合は、民具を除いて受け入れ台帳を作成していないので、資料が受領されると資料1点1点についてのカード作成に取りかかる。カードの書式は資料の種類によって異なり、古文書・典籍を除きすべてのカードには資料写真も添付される。それに記載された情報の一部をPC上の目録に入力し検索の手段とするのである。すなわち整理作業とは、ドキュメント (document) 作成を通じた資料の情報化にほかならない。

課題としては、モノに付属しない地域の情報（例えば聞き取り結果や地域遺産の所在情報）の管理についてが挙げられる。これを組織でどう共有化し引きついでいくか、検討する必要がある。

●資料整理の概要

民具

民具とは、一般的には人々が生活の必要から製作、使用してきた一切の道具を指すが、当館の場合、古文書・典籍、古写真、絵画、工芸、考古に属さない資料のすべてがこの範疇で整理されている。

民具が搬入されるとまず受け入れ台帳に登録され、番号が与えられる。それが資料番号となる。そして資料名・寄贈者氏名・住所・寄贈年月日などのほか、寄贈者から聞き取りした製作時の状況や使用した時期、使い方、その大きさや材質などの情報がカードに記録される。平成22年度は350点の資料を整理した。

なお、収蔵している民具のうち、西川材生産に関係する用具448点は埼玉県有形民俗文化財に指定されている。

②古文書・典籍（文献資料）

紙に文字や記号、図像などが記録されている資料がこれに該当する。地域史料とよばれるこれらの資料は、主に昭和49年から昭和62年まで行われた飯能市史編さん事業の過程で収集されたものである。

その後、平成7年2月より中性紙封筒・保存箱への詰め替え作業を始めるとともに、再整理作業に着手した。その作業は以下のとおりである。

- ・以前は内容により分類され配架されていたものを所蔵者別に改め、史料番号も史料群ごとの通し番号とする。
- ・内容を確認しながら史料1点1点についてカードを作成し、それを基にコンピュータで目録を作成する。
- ・旧所蔵者の情報や史料群の概要を古文書所蔵者

解題カードにまとめる。

また、平成21年度には緊急雇用促進事業を利用して、当館で所蔵しているすべての文書・典籍の目録をエクセルに入力する作業を行った。再整理作業を経ていない史料も同様に行ったため、表題や形態などの記述の仕方が統一されていないところもあるが、この結果、当館における史料検索の手間が格段に効率化された。

このほか当該年度は、平成18年度に受け入れた鈴木家文書15点、平成20年度に受け入れた中村家文書の軸装類、及びこの年に寄贈された藤井家文書54点の整理作業を行った。

さらに燻蒸の終わった未整理史料の容器の移し替えを現状記録をしたあとに行い、一般収蔵庫に収納した。

③古写真

当館で収蔵している写真資料は個人所蔵の写真を複写させていただいたものと、館で所蔵しているものの2種類に分けることができる。これらの資料はいずれも、所蔵者(旧所蔵者)を単位に整理をおこない、



古文書整理風景

写真1点ずつカードを作成し、所蔵者などからの聞き取りや他の資料から得られた被写体についての情報を記録している。また、目録データはコンピュータで作成している。

④絵画

軸装や額、屏風などに仕立てられた日本画に加え、本市に在住または、ゆかりのある作家の油彩、デッサンなどの近代絵画を収蔵している。これらについては1つの作品ごとにカード化して管理している。ところが、これまで絵画を収蔵していた山手用地内の土蔵が取り壊されることとなったため、当館収蔵庫に収納されていたものと合わせて168点を、当年度12月より群馬県渋川市伊香保町の保科美術館で保管してもらうこととなった。

⑤工芸

工芸資料には、市指定文化財である双木本家飯能焼コレクションや落合寿親の手による香合、接収刀剣類を含む日本刀などがある。日本刀は、6月に手入れを行った。

⑥考古資料

当館で収蔵している考古資料は、市民から寄贈を受けた飯能焼原窯表採資料や板碑などである。なお、教



保科美術館での絵画保存状況

育委員会生涯学習課による発掘調査で得られた考古資料は、生涯学習課収蔵庫で保存している。

⑦その他の資料

このほかに、他の博物館、市の機関などが発行した図録、報告書、要覧などの図書類がある。これらについては発行機関別に受け入れ台帳を作成している。また、本市に関係するビデオソフトやDVD、記録映像として価値があるもの、さらにはレコードやテープ、CDといった音声資料も収蔵している。これらの資料についても台帳が作成され、利用できるよ

カード作成もしくは目録登録済資料点数一覧

(平成22年6月現在)

民具	古文書	古写真	絵画	古美術	工芸	文学	考古	映像	レコード	テープ	図書	合計
4,949	40,322	4,632	446	1	272	26	1,764	208	858	84	13,554	67,116

●名栗民俗資料室の資料整理

1 趣旨

平成17年1月の名栗村との合併以後、旧名栗村役場の建物とそこに収蔵された民俗資料が、名栗民俗資料室及び収蔵民俗資料として、当館の管理下となった。

だが、名栗民俗資料室は、降雨の際に床下を水が流れることから一階では一部床が抜け、さらに、雨漏りのため天井が落下している部分があるなど、民俗資料を保存する環境としては劣悪の状態にあった。事実、民俗資料の中には虫損が著しいものも数多く見られた。

以上のような状況を改善すべく、平成22年度に、

名栗民俗資料室に収蔵された民俗資料の全貌を把握することとなった。

まず初めに、民俗資料の把握に必要な作業と工程を決め、6月に入ってから名栗民俗資料室で作業を行った。

平成22年度中の作業では、①民俗資料一点につき一枚の基本カードを作成し、民俗資料本体には荷札を付けて、それらが照合可能な状態にすること、②民俗資料及び収蔵場所を清掃し、収蔵環境を改善すること、③作業終了時に、民俗資料一覧表(以下、「台帳」とする)が完成していること、を目標とした。

ただし、作業開始後、優先順位を見直し、②と③を優先して実施、①については台帳への記入終了後、まとめて作成することにした。

2. 作業の状況

名栗民俗資料室での作業は、平成22年6月11日(金)より開始し、平成23年2月8日(火)で終了した。

活動年月日とその内容については、下表に示したとおりである。合計で29日間を名栗民俗資料室での作業にあて、そのうちの24日間で、民俗資料個々について整理作業を行った。

整理作業の具体的な手順は次の通りである。①撮影場所に民俗資料を移動、②簡単なクリーニング(乾拭き、箒・掃除機などの使用)、③写真撮影、④採寸、⑤台帳への記入(番号・名栗資料番号・資料名・長さ・幅・高さ・備考など)、⑥荷札(番号・資料名・旧所有者名などを記載)を資料につける、⑦虫やカビの害が比較的少ないと思われる場所への移動。これらの作業を、基本的には一人で行った。



名栗民俗資料室 第4展示室

結果的に、総数670点の民俗資料を把握、平成23年2～3月でそれらについて一枚ずつ基本カードを作成し、平成22年度の作業を全て完了した。

名栗民俗資料室収蔵民俗資料整理作業一覧

No.	年	月	日	曜日	作業場所	内 容	整理対象 民俗資料	整理点数 (点)	
1	平成 22	6	11	金		収蔵状況の確認、整理作業の段取り			
2		6	16	水		〃			
3		6	18	金	第4展示室	整理作業(クリーニング・写真撮影・台帳への記入・荷札つけ)	第1・4展示室収蔵資料	11	
4		6	22	火		〃	第1展示室収蔵資料	39	
5		6	25	金		〃	〃	28	
6		6	29	火		〃	〃	21	
7		7	9	金		〃	〃		
7		7	9	金			温湿度計設置、虫害が著しい資料の防虫処理	〃	11
8		8	7	土	屋外	展示台の解体			
9		8	17	火		〃			
10		9	7	火	第4展示室	整理作業(クリーニング・写真撮影・台帳への記入・荷札つけ)	第4展示室収蔵資料	30	
11		9	8	水	第1展示室	〃	第1・4展示室収蔵資料	39	
12		9	9	木		〃	第1展示室収蔵資料	32	
13		9	10	金		〃	〃	32	
14		9	14	火		〃	〃	47	
15		9	16	木		〃	〃	38	
16		9	28	火		〃	〃	37	
17		11	19	金		〃	〃	19	
18	12	25	土	〃		〃	24		
19	平成 23	1	19	水		第5展示室	〃	第1・3展示室収蔵資料	41
20		1	20	木			〃	第3・4展示室収蔵資料	16
21		1	23	日	〃		第5展示室収蔵資料	45	
22		1	25	火	〃		〃	30	
23		1	26	水	第4展示室	民俗資料移動	第4展示室収蔵資料		
24		1	27	木	第5展示室	整理作業(クリーニング・写真撮影・台帳への記入・荷札つけ)	第4・5展示室収蔵資料	13	
25		1	28	金		〃	第5展示室収蔵資料	26	
26		1	29	土		〃	〃	15	
27		2	3	木		〃	〃	6	
28		2	4	金		〃	〃	19	
29		2	8	火		〃	〃		
29	2	8	火			〃	第1・5展示室収蔵資料	51	

整理点数合計 670点

●収蔵資料目録5

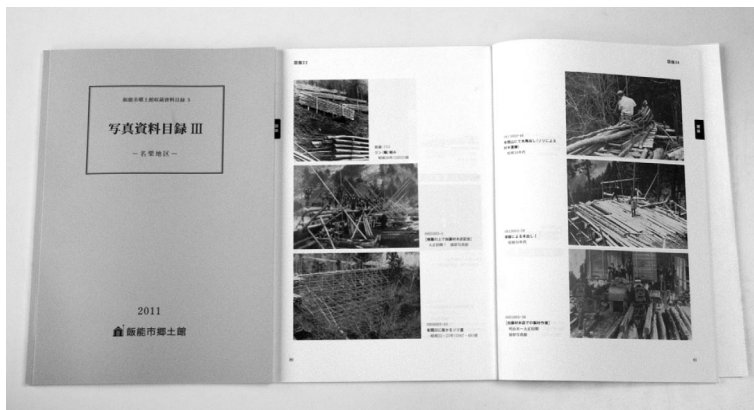
『写真資料目録Ⅲ — 名栗地区 —』の刊行

当館では、整理が完了した資料について、平成15年からほぼ隔年で収蔵資料目録を刊行してきた。これらの資料目録は単に収蔵資料の一覧を掲載するだけでなく、掲載する資料群の概要や関連事項、分析結果なども記しており、研究・調査成果報告書としての機能も果たしている。

写真資料に対してはこれまで明治～昭和初期の台紙写真を対象とした『写真資料目録Ⅰ』（平成15年発行）、昭和・平成の写真を対象とした『写真資料目録Ⅱ』（平成17年発行）を刊行してきており、今回はそれに続く3冊目の写真資料目録となる。

本目録で対象とした写真は名栗地区の方々所蔵しているもの、またはその方々から寄贈されたものである。名栗地区は、平成17年1月1日に飯能市と合併した旧

名栗村にあたる。名栗村ですすめていた名栗村史編さん事業は、合併後は飯能市に引き継がれ郷土館が事務局として継続し、平成21年度に事業を完了した。名栗村史編さん事業の過程で収集された古文書類は順次、「名栗村史料目録」を刊行してきたが、古写真については整理がされていなかった。このため、合併後、郷土館で整理をすすめて、その成果として目録を刊行するに至った。



修 復

●中里織物工場製作昭和初期16mmフィルム

当館では、現在の南町にあった中里織物工場が昭和10年前後に撮影した16mmフィルム9本を所蔵している(下表)。これらは、撮影から70年以上が経過して酢酸臭を放つようになり、支持体の劣化や乳剤の変質、カビの発生など今後の保存が危ぶまれる状

況にあるため、平成20年度から株式会社東京光音に委託して修復を行っている。内容は、超音波によるクリーニングと劣化要因となる汚れ、カビの除去及びメディア変換である。

映像を変換した媒体は、マスターをDVCAM、視聴用はDVDとした。平成22年度はNo.5と7の2本を行った。

丸中織物株式会社製作16ミリフィルム一覧

No.	容器外面タイトル	フィルム内タイトル	長さ (フィート)	撮影年月日	製作	撮影	備考
1	丸中用 光栄	昭和九年拾壹月拾七日 光栄 丸中織物株式会社	175	昭和9.11.17			平成21年度修復
2	第参回体育大会		400	昭和9			平成21年度修復
3	遠足汐干狩 丸申したしみ会	昭和十一年五月八日 遠足汐干狩 丸中織物株式	350	昭和11.5.8			平成21年度修復
4	新工場建設 祝南京陥落		400				平成20年度修復
5	丸中工場第四回体育大会 したしみ会	昭和九年拾月廿一日 第参回体育大会 丸中織物株式会社したしみ会	400	昭和9.10.21	日比谷商店	甘茶倶楽部 中川孝吉	後半劣化著しい
6	飯能工場懇話会主催 第四回体育大会 丸中工場参加巻	第4回工場従業員慰安運動会 丸中織物株式会社参加出場状況 主催飯能工場懇話会 後援埼玉県工業懇話会	400	昭和10.4.21			劣化著しい
7	朝香宮御台臨 旅行大鳥登山 防空演習実況		400				
8	丸中工場 運動篇		400				劣化著しい
9	遠足江ノ島 安全週間 永田道ぶしん		300				平成20年度修復

※太字が平成22年度に修復したもの。

保 存

●新収蔵資料の燻蒸

当館では、平成15年度から新規に収集した資料をビニールシートで覆う被覆燻蒸を実施している。年1回荷解室で行い、資料はその後に収蔵庫に収納される。

平成22年度は6月28日(月)に準備として燻蒸対象物を移動し、翌29日(火)に養生作業をし、午後2時から投棄、7月1日(木)午後2時まで燻蒸処理をし、その後排気、2日(金)に完了した。使用薬剤はエキヒュームSである。この間、7月29日(火)から7月3日(土)までを臨時休館とした。



被覆燻蒸作業

●収蔵庫・展示室の環境調査

収蔵資料に劣化をもたらす虫菌類の有無を調べるための環境調査を年2回実施している。対象は、特別収蔵庫・一般収蔵庫・収蔵庫前室・荷解室・常設展示室・特別展示室・展示ホールで、内容は、昆虫生息調査87ヶ所(歩行性昆虫トラップ81・飛翔性昆虫トラップ6)、空中浮遊菌調査9ヶ所、表面付着菌調査が6ヶ所である。

平成22年度は1回目を6月1日から6月24日まで、2回目を9月22日から10月22日までの期間で実施した。調査の結果、資料に影響を及ぼすほどの害虫や菌類の存在は確認されず、展示室・収蔵庫は良好な環境にあることがわかった。

●歴史的行政文書保管場所の変更

飯能市文書管理規則第40条では「前条第1項の規定により廃棄を決定した文書のうち、歴史資料として重要であると認められるものは、主管課長が教育委員会及び庶務課長と協議のうえ、教育委員会に移管するものとする。」と規定され、飯能市教育委員会文書管理規程第41条で「前条第1項の規定により廃棄を決定した文書のうち、歴史資料として重要であると認められるものは、主管課長が郷土館長と協議のうえ、郷土館に移管するものとする。」とされており、廃棄対象文書のうち歴史資料として重要な文書の収集は当館の業務の一つとなっている。

本市では保存期間が3・5・10・永年の文書は平岡レースから譲り受けた倉庫(山手書庫)で保管して

おり、保存年限が過ぎたものは廃棄文書として年度始めに書庫の一定の場所に集められる。当館ではこれら廃棄対象となった文書から歴史資料となりそうな文書を選び、山手書庫の一角に保管してきた。ただし、これは廃棄決定直後の短期間のうちに選別する作業のため、歴史的行政文書保存のためのあくまで一次選別である。

これら文書を保管していた山手書庫が平成22年度末に取り壊されることとなり、選別した文書の保管場所を探したが適当な場所がなかったため、平成23年1月から業者の倉庫に保管委託することとなった。この段階で保管委託した文書は平成13年度以降一次選別した532箱である。

今後、保管できる市の施設をできるだけ早くさがすとともに、二次選別をすすめ保存すべき文書を確認することが課題となっている。



歴史的行政文書の出庫作業

地域の歴史、文化についての調査・研究は、地域博物館にとって核となる重要な業務である。特別展などの展示や学習会、レファレンスの対応、資料の貸出利用など、博物館活動のすべては、これを基盤として成り立っているためである。

現状では、調査・研究活動は特別展開催のための資料調査や、研究紀要の刊行に伴う単発的な調査・研究が主体となっている。当館が地域博物館としての存在意義を示すために、調査・研究のあり方を検討する必要性に迫られている。

特別展に関する調査

毎年秋に開催される特別展は、当館が最も力を入れている事業であり、特別展図録はこの調査成果の集大成とも言える。

平成23年度の特別展「飯能戦争」(仮称)準備のため、以下の機関において関係資料の調査を行った。

8/25 渋沢栄一記念館(深谷市)

9/7 港区立港郷土資料館・台東区生涯学習センター

9/8 板橋区立郷土資料館

9/14 沼津市明治史料館

10/1 栃木県立博物館(宇都宮市)

11/18 埼玉県立歴史と民俗の博物館(さいたま市)

1/19 渋沢史料館(東京都北区)

2/22~24 大村市立史料館(長崎県)

3/26 宮崎県立図書館・宮崎県総合博物館(宮崎市)



大村市立史料館



宮崎県総合博物館での資料調査

古文書詳細調査

飯能市教育委員会では、平成16年度より平成21年度にかけて古文書所在確認調査を実施した。その結果、新たな史料群の存在が明らかとなってきたが、一方でこの調査がきっかけとなって当館に史料を寄贈したり、寄託することを希望する家も多くなってきている。

こうした史料保存活動を意義のあるものにしていくためには、当館で収蔵している史料の翻刻や内容

の調査なども行っていく必要がある。

そこで、当館では平成19年度より特定のテーマを設定し関係する史料の調査を行っていくこととした。平成22年度は、昨年度(平成21年度)に引き続き飯能戦争関係史料の所在調査を実施した。具体的には、東京大学史料編纂所所蔵の「大日本維新史料稿本」の中から飯能戦争に関係する史料を確認し、翻刻を行った。

旧平岡レース(株) 食堂棟の調査

旧平岡レースの敷地は、平成11年4月に土地開発公社が取得し、事務所棟、蔵、倉庫、食堂棟など活用できる建物は平岡レースより寄付を受け、市では当分の間「山手用地」として称し活用してきた。このうち、事務所棟と食堂棟については高名な建築家「遠藤新」の設計とわかり、平成18年度には、その建築作品及び建築史的価値を判断するための調査を文化女子大学短期大学部(当時)の井上祐一教授に依頼した。この結果いずれの建物も遠藤新の設計の特徴をもつ晩年の貴重な建物であることが判明した。

その後、この土地利用について再三の協議をすすめてきたが、最終的には図書館及び総合保育施設の建設用地とすることが決まった。食堂棟は機械による丁寧な解体、事務所棟は手壊し解体で再建可能な部材を保存するとともに詳細な記録を残すこととなり、その調査や記録については当館が担うことが平成23年1月に急遽決まった。

食堂棟の解体は同年3月4日から着工、解体とともに必要な写真や図面の作成をすすめた。解体工事は年度をまたいで翌年度まで引き継がれ、それに伴い調査も年度をまたいで継続することとなった。



旧平岡レース食堂棟外観



旧平岡レース食堂棟内部

刊行図書



○ 特別展図録

「大地に刻まれた飯能の歴史
—30年の発掘調査成果から—
A 4判56頁
(平成22年10月17日発行)

○ 飯能市郷土館収蔵資料目録 5

「写真資料目録Ⅲ 一名栗地区—
A 4判88頁
(平成23年 3月31日発行)

○ 飯能市郷土館館報

「郷土館のプロフィール」第7号
A 4判60頁
(平成23年 3月31日発行)

郷土館だより

「郷土館だより」は、郷土館の事業を知っていただくための広報誌で平成13年 5月1日に創刊号を発行した。その後、都合により回数が減った年もあるが、年4回、季節ごとに発行することを目標としている。体裁は市内印刷による白黒A 4判4ページである。

費用の点から、全戸配布ではなく各戸回覧で見えていただくこととしており、配布にあたっては、自治会・町内会の皆様にご理解とご協力をいただいている。平成22年度は下記の2号を発行した。

平成22年度の郷土館だより

号数	発行日	内 容
第28号 (新緑号)	平成22年5月15日	名栗村史編さん事業の完結編、遂に完成！「名栗の歴史(下)」／第6回「マイ・コレ。」(案内)／平成22年度郷土館の主な行事(案内)／収蔵絵画四人展「飯能ゆかりの画家たち」(実施報告)／刊行物のお知らせ／絵画の寄贈をうけました
第29号 (春号)	平成23年3月15日	「昭和の思い出の写真」募集中／収蔵品展「小島喜八郎寄贈絵画展」(案内)／ミニ展示「飯能の西川材関係用具」(案内)／終了した展示／市民学芸員の活動／平成23年度年間行事予定

当館での事業や地域の情報を市民をはじめとした多くの方々に伝えるための広報活動は大変重要である。当館では広報「はんのう」への事業案内の掲載、ポスター・チラシの配布、報道機関への連絡、当館ホームページでの紹介などで広報しているが、十分な効果が得られているとは言い難く、その改善が大きな課題の一つとなっている。

ホームページ

インターネットの普及に伴い、情報提供の手段としてホームページの有効性が増してきたため、当館では、平成14年10月にホームページの公開を開始した。その後、当館で更新できる体制を整え、内容を検討し、平成19年4月8日から全面更新した。その内容や考え方のうち、特に留意したのは次の4点である。

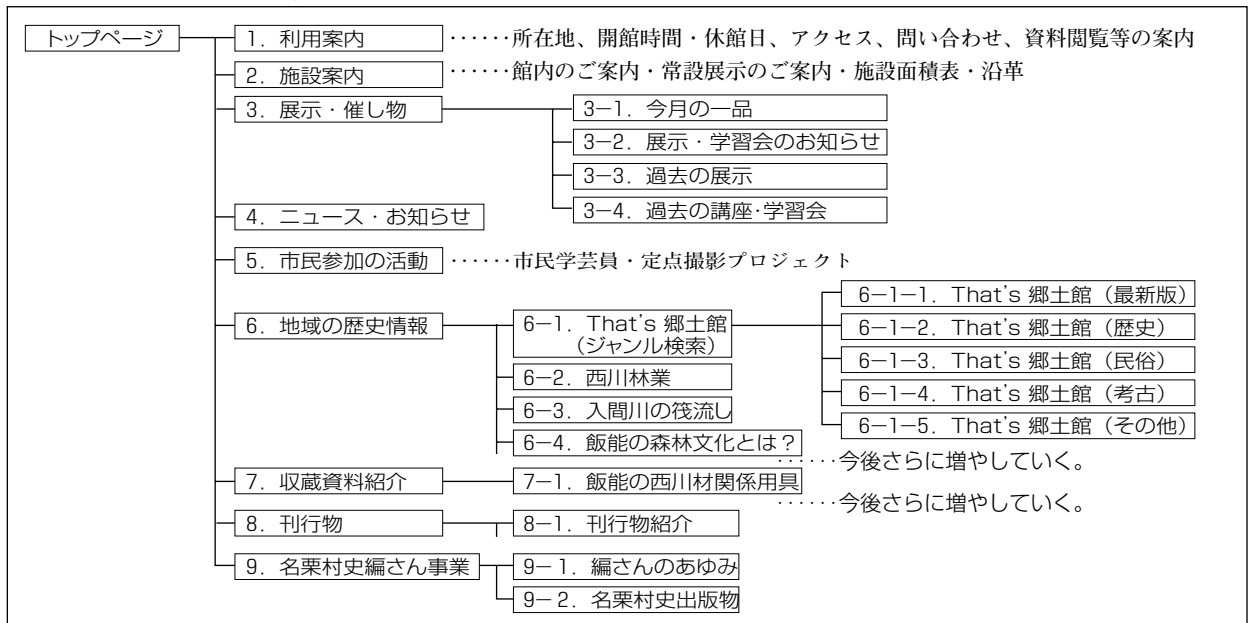
- ①郷土館に関する案内を充実させる。
- ②地域情報や歴史情報を掲載し、一般の人が調べられるホームページとする。
- ③飯能市のホームページの範囲内で構成する。
- ④更新しやすいページ構成にする。

郷土館ホームページアクセス件数

月	件数	昨年度までの平均
4月	442	418.8
5月	491	417.8
6月	537	483.8
7月	476	439.8
8月	847	512.3
9月	796	505.5
10月	651	488.0
11月	577	453.7
12月	404	357.5
1月	659	394.0
2月	696	479.5
3月	874	514.8
合計	7,450	5,351.8
1ヶ月平均	620.8	455.2



郷土館ホームページ構成図



That's! 郷土館

これは、地元のケーブルテレビである「飯能・日高テレビ」で毎月発行している番組表の紙面に、「That's! 郷土館」というタイトルで地域の歴史、文化を紹介しているものである。

飯能ケーブルテレビ(当時の名称)の依頼により平成13年5月から連載を開始し、現在に至っている。内容は展示資料や収蔵資料に関すること、地域の特定の歴史事象に関すること、資料の整理や調査で気

付いた点など様々である。地域情報の紹介や当館の活動内容を伝える好機なので、毎回学芸員が交代で執筆している。

ただ、テレビの番組表という性格上、ケーブルテレビを視聴している家庭のみにしか配布されていないため、より広く紹介するために当館のホームページにも転載している。

平成22年度は下の表のとおりである。

平成22年度「That's! 郷土館」掲載記事一覧

月	内 容	担当学芸員
4月	実録・須田精道②「S:D:Syokdoo」とは?	尾崎
5月	「名栗の歴史(下)」より 名栗村の近・現代① 上名栗区・下名栗区	柳戸
6月	「名栗の歴史(下)」より 名栗村の近・現代② 高麗郡に入りたい!~40年以上にわたる郡域変更運動~	柳戸
7月	「名栗の歴史(下)」より 名栗村の近・現代③ 同一学区に2つの小学校新築~県下にも稀な学校争論~	柳戸
8月	「名栗の歴史(下)」より 名栗村の近・現代④ 写真で見る疎開児童の生活	柳戸
9月	「名栗の歴史(下)」より 名栗村の近・現代⑤ 「昭和の大合併」に参加しなかった名栗村	柳戸
10月	子の権現への参道	村上
11月	小瀬戸村須田家文書の概要 ~古文書整理の現場から~	尾崎
12月	さつま団子のはなし	村上
1月	大河原薬局の店蔵主人「周滑平」	尾崎
2月	飯能の“うた”	村上
3月	江戸時代の学校 ~古文書整理の現場から~	尾崎

The screenshot shows the Hanno Municipal Museum website. The main article is titled "子ノ権現 (ねのこんげん) への参道" (Approach to Mikoto no Kogen (Neno-kongen)). The article text describes the shrine's location in Hanno City, its founding in the 11th century, and its historical significance. It mentions that the shrine is a representative mountain shrine in the area and has a long history. The article also includes a photograph of the shrine's stone torii gate and a caption: "安永八年(1779)の町石 「天寺」(天龍寺のこと)" (Townstone from the 8th year of An'ei (1779) 'Tenji' (Tenryu-ji)).

ホームページに掲載されているThat's! 郷土館

郷土館の運営に関する事項を調査し、審議するため郷土館協議会がおかれている(飯能市郷土館条例第10条)。協議会は市議会議員、学校教育の関係者、社会教育の関係者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

任期：平成20年7月1日～平成22年6月30日

【委員名簿】

職名	氏名	役職	備考
会長	村野みどり	おはなしの会「なんじゃもんじゃ」代表	
副会長	柳澤 陽子	文芸飯能選考委員	
委員	小見山 進	市議会議員	平成21年5月4日退任
委員	石井 健祐	市議会議員	平成21年5月20日就任
委員	中村恵太郎	加治東小学校長	平成21年3月31日退任
委員	白石 守	東吾野小学校長	平成21年4月1日就任
委員	黒澤 秀美	吾野中学校長	
委員	森泉 忠雄	飯能絵画連盟	
委員	田島 哲也	林業家	
委員	波多野宏之	駿河台大学副学長	
委員	保坂 裕興	学習院大学教授	
委員	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	

【開催状況】

第1回 平成22年5月26日(水)午前10時～

(議事)

報告事項

- ・平成21年度事業報告について
- ・平成22年度事業経過について

①収蔵絵画四人展「飯能ゆかりの画家たち」

②市民学芸員養成講座について

協議事項

・平成22年度事業について

①名栗資料室の民具整理について

②特別展「考古学から見た飯能」について

任期：平成22年7月1日～平成24年6月30日

【委員名簿】

職名	氏名	役職	備考
会長	柳澤 陽子	文芸飯能選考委員	
副会長	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	
委員	石井 健祐	市議会議員	
委員	白石 守	東吾野小学校長	
委員	黒澤 秀美	吾野中学校長	
委員	森泉 忠雄	飯能絵画連盟	
委員	井上 淳治	(有)創林 代表取締役	
委員	野村 正弘	駿河台大学准教授	
委員	保坂 裕興	学習院大学教授	
委員	栗原 慶子	東吾野女性林研とさめ木 会長	

【開催状況】

第2回 平成22年7月21日(水)午前10時～

(議事)

報告事項

- ・平成22年度主な事業の経過及び今後の予定について
- ・平成21年度および平成22年度飯能市教育行政の重点施策の評価シートについて

協議事項

- ・郷土館の方向性と課題について

報告事項

- ・平成22年度主な事業の経過及び今後の予定について

協議事項

- ・郷土館の方向性と課題について

第4回 平成23年2月23日(水)午前10時～

(議事)

報告事項

- ・平成22年度主な事業の経過及び今後の予定について

協議事項

- ・平成23年度の主な事業について
- ・郷土館の方向性と課題について

第3回 平成22年10月27日(水)午前10時～

(議事)

博物館実習

当館では、市民サービスの一環として大学の学芸員養成課程の博物館実習を受け入れている。

原則として、市民とみなされる世帯に属する子弟で博物館学の単位を修得した学生がその対象となる。平成22年度は5人の実習生を受け入れ、下記のプログラムを行った。

実施期間 平成22年7月30日(金)～8月12日(木) 12日間

実習生名 小宮山修弘(駿河台大学)・塩野匡浩・鈴木みずき(以上大東文化大学)

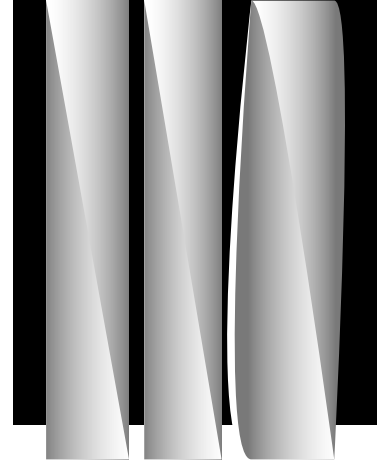
林華世子(東洋大学)・本美穂(学習院大学)

	実施日	曜日	午 前	午 後
1	7月30日	金	教員2年次研修受講	当館の施設について(柳戸)
2	7月31日	土	夏休み子どもクラブ準備(村上)	夏休み子どもクラブ運営(村上)
3	8月1日	日	夏休み子どもクラブ運営(村上)	
4	8月3日	火	夏休み子ども歴史教室準備(村上)	
5	8月4日	水	夏休み子ども歴史教室準備(村上)	
6	8月5日	木	夏休み子ども歴史教室運営(村上)	夏休み子ども歴史教室準備(村上)
7	8月6日	金	夏休み子ども歴史教室運営(村上)	夏休み子ども歴史教室反省(村上)
8	8月7日	土	名栗資料室民具整理(村上)	
9	8月8日	日	定点撮影プロジェクト写真展解説シート作成(柳戸)	
10	8月10日	火	収蔵史料の配架順序変更(尾崎)	
11	8月11日	水	収蔵史料の配架順序変更(尾崎)	
12	8月12日	木	収蔵史料のカード作成(尾崎)	当館の課題について(尾崎)

()は指導者名



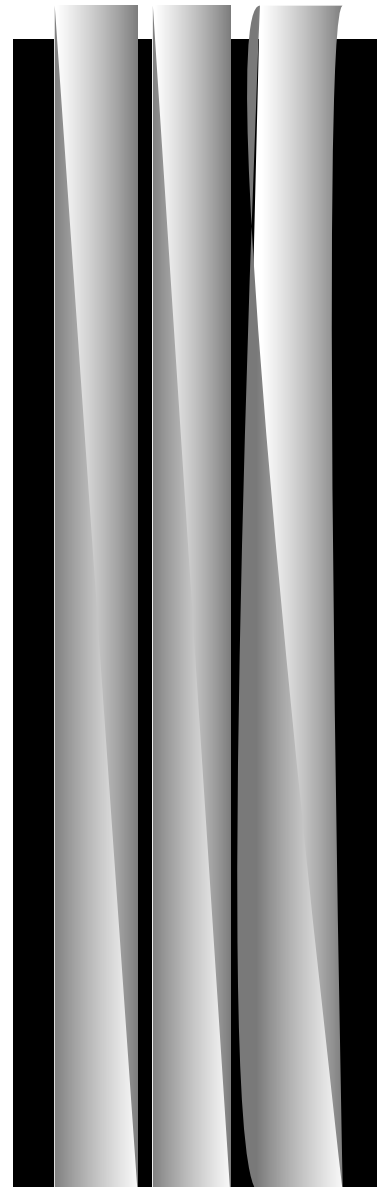
実習風景(収蔵史料の配架順序変更)



第 3 章

…… Chapter 3 ……

【各種データ】



利用者数

平成22年度

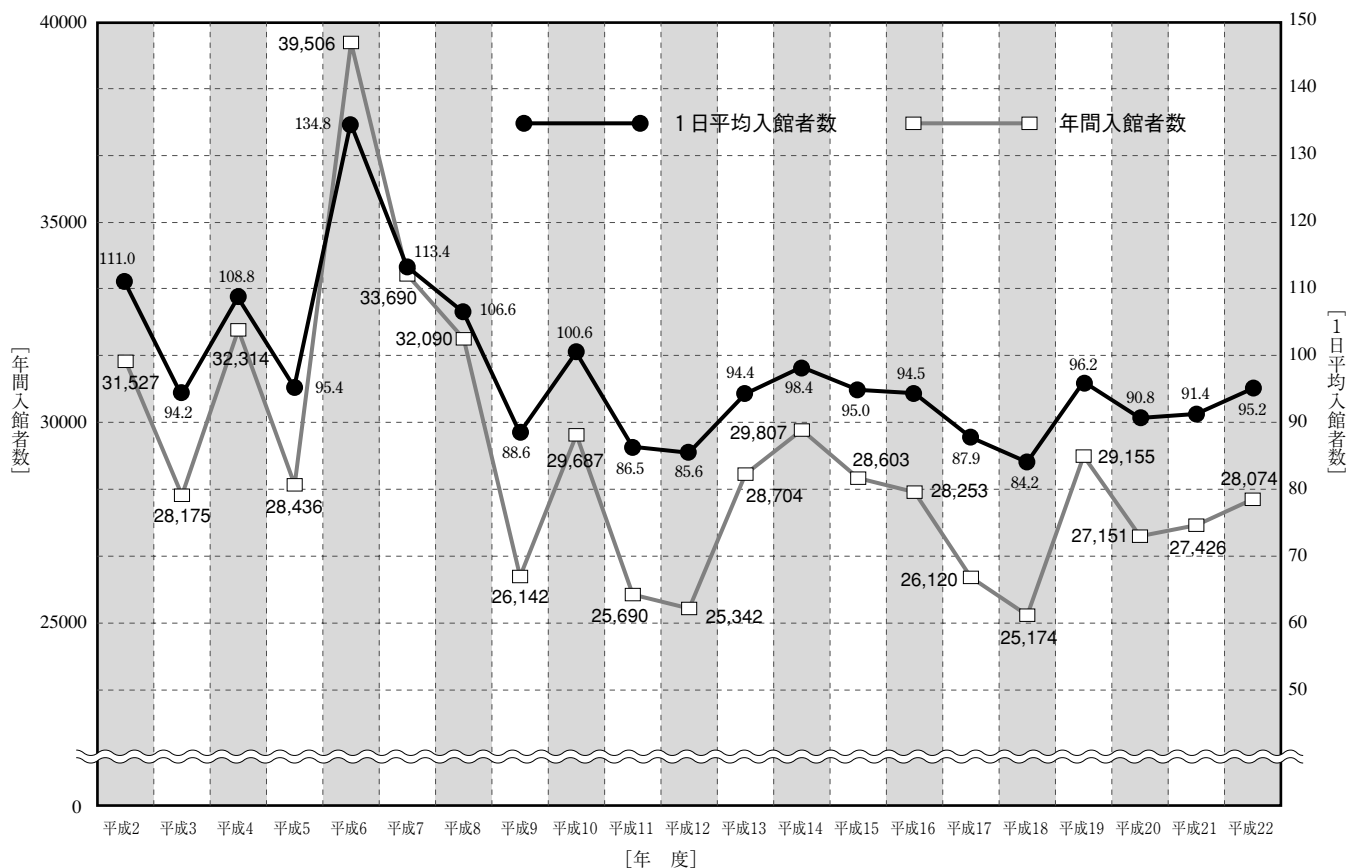
(単位：明記したものを以外は人)

月	開館日数 (日)	入館者数		入館者以外の利用者数							利用者 合計
		人数	1日平均	出張授業 受講者数	資料利用 者数	レファレ ンス件数	講師派遣 受講者数	ホームペ ージ アクセス 件数	合計	利用者合計に 対する割合(%)	
4	23	2,514	109.3		4	8	68	442	522	17.2	3,036
5	26	2,388	91.8	237	11	21		491	760	24.1	3,148
6	24	1,789	74.5	103	8	15		537	663	27.0	2,452
7	24	1,779	74.1	101	11	11	11	476	610	25.5	2,389
8	26	2,024	77.8		31	18	13	847	909	31.0	2,933
9	26	2,146	82.5		11	12		796	819	27.6	2,965
10	27	2,161	80.0	179	9	10		651	849	28.2	3,010
11	23	2,907	126.4	8	12	19	25	577	641	18.1	3,548
12	22	1,591	72.3		12	11	22	404	449	22.0	2,040
1	23	2,405	104.6		6	1	35	659	701	22.6	3,106
2	24	3,837	159.9		7	22	38	696	763	16.6	4,600
3	27	2,533	93.8	17	7	17	8	874	923	26.7	3,456
合計	295	28,074	95.2	645	129	165	220	7,450	8,609	23.5	36,683

開館(平成2年度)から平成22年度末までの

総入館者数	611,066 人
開館日数	6,252 日
1年平均入館者数	29,098.4 人/年
1日平均入館者数	97.7 人/日

＜入館者数の推移＞



歳出予算

(単位：明記したものの以外は千円)

事業名 年度	郷土館 事務費	展示・学習会 開催事業	資料収集・ 保存事業	調査・ 研究事業	郷土館施設 管理事業	郷土館 事業費小計	名栗村史 編さん事業費	郷土館費 合計	A (%)	B (円)	C (円)
20	3,358	3,896	4,063	200	7,875	19,392	2,409 ※平成19年度より 繰越	21,801	0.08%	232.0円	714.2円
	17.3%	20.1%	21.0%	1.0%	40.6%						
21	3,142	3,715	2,973	668	9,201	19,699	1,636 ※平成20年度より 事故繰越	21,335	0.08%	236.5円	718.3円
	16.0%	18.9%	15.1%	3.4%	46.7%						
22	3,126	3,921	7,714	281	7,433	22,475	0	22,475	0.08%	270.6円	800.6円
	13.9%	17.4%	34.3%	1.3%	33.1%						

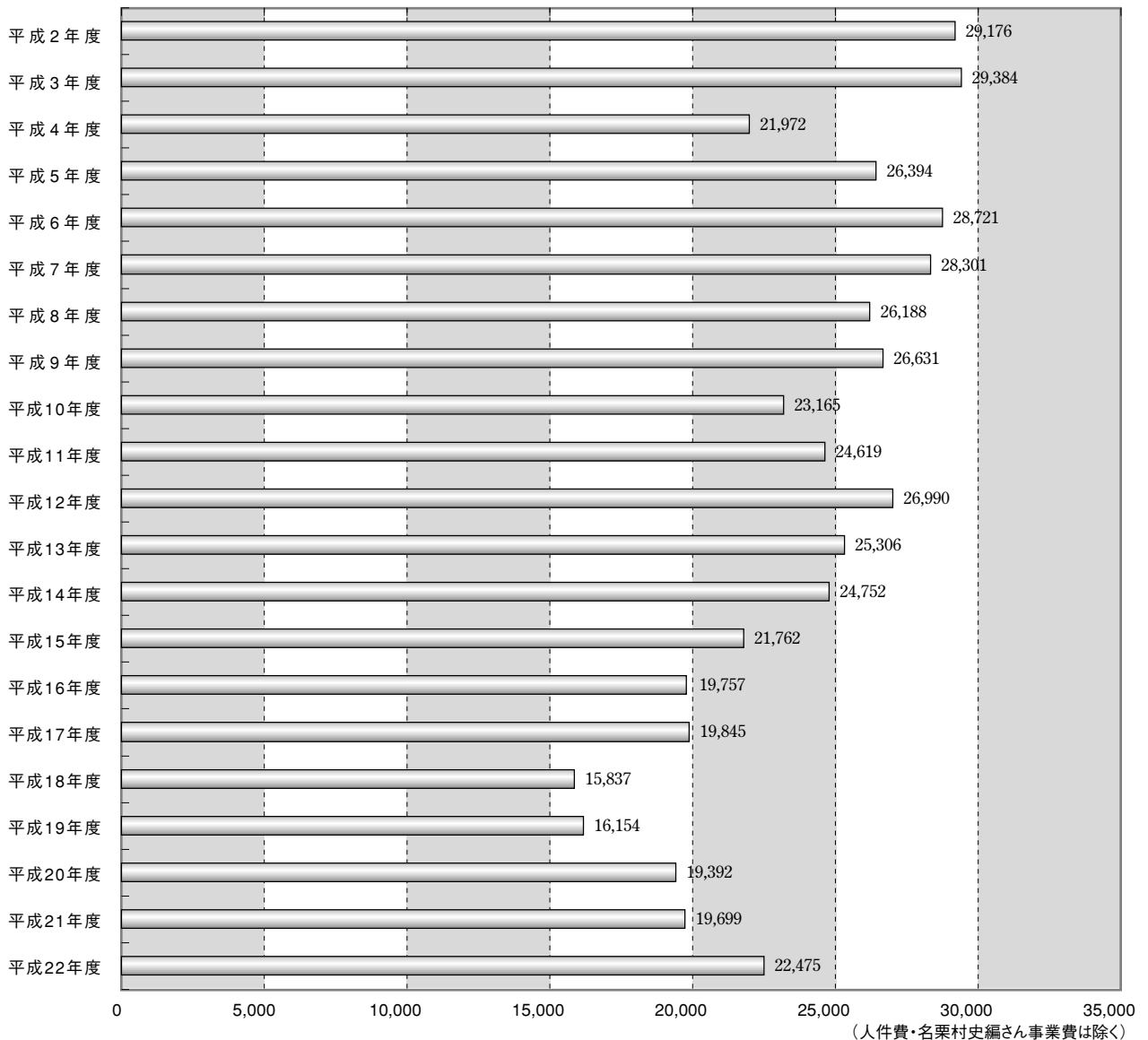
郷土館事業費（人件費・名栗村史編さん事業費除く）の

(当初予算。ただし人件費は除く)

- A：飯能市一般会計当初予算に対する比率
- B：市民1人あたり（当該年度の4月1日現在の人口）の金額
- C：入館者1人あたりの金額

〈飯能市郷土館当初予算額の推移〉

単位：千円



図書資料寄贈機関

埼玉県

上尾市教育委員会
朝霞市博物館
伊奈町
入間市博物館
越生町
奥むさし駅伝競走大会実行委員会
桶川市教育委員会
小鹿野町
小川町遺跡調査会
小川町教育委員会
川越市教育総務部文化保護課
川越市立博物館
春日部市郷土資料館
川口市立科学館
行田市
熊谷市教育委員会
熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室
熊谷市立熊谷図書館
高麗神社社務所
さいたま市
さいたま市立浦和博物館
さいたま市立博物館
さいたま文学館
サトエ記念21世紀美術館
狭山市立博物館
幸手市教育委員会
彩の国コミュニティ協議会
埼玉県
埼玉県教育委員会
埼玉県平和資料館
埼玉県埋蔵文化財調査事業団
埼玉県立さきたま史跡の博物館
埼玉県立さきたま史跡の博物・埼玉県立嵐山史跡の博物館
埼玉県立自然の博物館
埼玉県立川の博物館
埼玉県立文書館
埼玉県立歴史と民俗の博物館
駿河台大学
駿河台大学2010野村ゼミナール4年一同
駿河台大学学務部学務課

精明郷土史研究会
租税大学校税務情報センター租税史料館
中世文化財を活用した地域連携事業実行委員会
摘田技術保存会
鉄道博物館
戸田市立郷土博物館
所沢市教育委員会
所沢市立埋蔵文化財調査センター
日本工業大学工業技術博物館
羽生市教育委員会
鉢形城歴史館
鳩ヶ谷市立郷土資料館
飯能市絵画連盟
飯能市
飯能市教育委員会
飯能市郷土館古文書同好会
飯能市児童生徒体力向上推進委員会
飯能市租税教育推進協議会
飯能市総務部庶務課
飯能市役所
飯能市役所農林課
飯能市立図書館
日高市教育委員会
比企地区文化財振興協議会
ふじみ野市立大井郷土資料館
深谷市郷土文化会
富士見市立水子貝塚資料館
富士見市立難波田城資料館
宮代町教育委員会
宮代町郷土資料館
三郷市教育委員会生涯学習部生涯学習課
嶽崎猛
毛呂山町
毛呂山町教育委員会
吉川市
嵐山町教育委員会
立正大学博物館
蕨市立歴史民俗資料館

東京都

NPO法人MORIMORIネットワーク

あきる野市
イカロス出版
板橋区教育委員会
板橋区立郷土資料館
青梅市教育委員会
青梅市教育委員会郷土博物館管理課
大田区
葛飾区郷土と天文の博物館
鹿島建設株式会社
学習院大学史料館
共和開発(株)
錦正社
清瀬市郷土博物館
北区教育委員会
国文学研究資料館
しょうけい館 戦傷病者資料館
ジンカンパニー株式会社
株式会社シティトータルプラン
(財) 渋沢栄一記念財団
渋沢史料館
杉並区立郷土博物館
たましん地域文化財団
台東区教育委員会生涯学習課文化財担当
大成エンジニアリング(株)
中央区教育委員会・中央区立郷土天文台
(株) 東京印書館
東京都江戸東京博物館
東京都美術館
東洋大学
豊島区
財団法人 日本博物館協会
練馬区教育委員会
練馬区立石神井ふるさと文化館
パルテノン多摩
八王子市教育委員会
日野市
(財) 府中文化振興財団 府中市郷土の森博物館
府中文化振興財団
福生市教育委員会
文化環境研究所
文化庁文化財部美術学芸課
(株) マディックス
町田市教育委員会
(株) 三菱総合研究所
港区教育委員会
港区立港郷土資料館

武蔵村山市立歴史民俗資料館
武蔵大学学芸員課程
学校法人目白学園
明治大学学芸員養成課程
明治大学学術・社会連携部博物館事務室
文部省科学省

その他

赤穂市立歴史博物館
稲敷市立歴史民俗資料館
岩宿博物館
市川寛
小山市立博物館
かみつけの里博物館
各務原市歴史民俗資料館
神奈川大学日本常民文化研究所
菊川市教育委員会
群馬県教育委員会他
群馬県立歴史博物館
国立歴史民俗博物館
小林茂
寒川町
下関市立考古博物館
衆議院憲政記念館
高萩市教育委員会
高萩市文化協会
田原市教育委員会
田原市博物館
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
津山郷土博物館
土浦市立博物館
長野市教育委員会文化財課
長野市教育委員会文化財課松代文化施設等管理事務所(真田宝物館)
流山市教育委員会
野田市郷土博物館
平塚市博物館
藤沢市文書館
文化財虫害研究所
松戸市立博物館
水戸市立博物館
山口正義
横浜開港資料館
立命館大学国際平和ミュージアム
歴史学と博物館のあり方を考える会

飯能市郷土館条例

平成元年12月27日 条例第33号

(設置)

第1条 郷土の歴史、民俗及び考古に関する資料(以下「資料」という。)の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、これらの活用を図り、もって市民の郷土愛と文化の向上に寄与するため、飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。

(業務)

第2条 郷土館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料の調査及び研究に関すること。
- (3) 資料の展示及び利用に関すること。
- (4) 資料についての専門的な知識の啓発及び普及に関すること。
- (5) その他郷土館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(管理)

第3条 郷土館は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 郷土館に、館長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第5条 郷土館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(この日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)である場合を除く。)
- (2) 休日の翌日(この日が日曜日又は休日である場合を除く。)
- (3) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(利用時間)

第6条 郷土館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(利用の制限)

第7条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、郷土館の利用を制限することができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) その他郷土館の管理上支障があると認められるとき。

(使用料)

第8条 郷土館の使用料は、無料とする。

(損害賠償)

第9条 郷土館の利用者は、自己の責めに帰すべき

理由により、郷土館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を免除することができる。

(郷土館協議会)

第10条 郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため、飯能市郷土館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(協議会の組織)

第11条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 市議会議員
- (2) 学校教育の関係者
- (3) 社会教育の関係者
- (4) 学識経験者

(委員の任期)

第12条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第13条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第14条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

- 2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第15条 協議会の庶務は、郷土館において処理する。

(委任)

第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成2年4月1日から施行する。
(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)
- 2 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。

[次のよう]略

飯能市郷土館条例施行規則

平成2年3月31日 教委規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、飯能市郷土館条例(平成元年条例第33号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(職務)

第3条 館長は、上司の命を受け、郷土館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、郷土館の専門的業務を処理する。

3 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

(施設の利用及び許可)

第4条 学習研修室、特別展示室及び図書室(以下「学習室等」という。)は、郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用することができる。

2 学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3 学習室等(図書室を除く。)を利用しようとする者は、飯能市郷土館施設利用許可申請書(様式第1号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

(郷土館資料の利用及び許可)

第5条 郷土館の資料(以下「資料」という。)は、学術上の研究のため、利用することができる。

2 資料を利用しようとする者は、飯能市郷土館資料利用許可申請書(様式第3号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館資料利用許可書(様式第4号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

(施設、資料利用許可の取消し等)

第6条 館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、利用の条件を変更し、又は利用の許可を取

り消すことができる。

(1) 利用許可の申請に偽りがあったとき。

(2) 条例又はこの規則に違反したとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第7条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 資料を寄贈しようとする者は、飯能市郷土館資料寄贈申請書(様式第5号)を、資料を寄託しようとする者は、飯能市郷土館資料寄託申請書(様式第6号)を館長に提出するものとする。

3 館長は、資料を寄贈した者に対して飯能市郷土館資料受領書(様式第7号)を、資料を寄託した者に対して飯能市郷土館資料受託書(様式第8号)を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、郷土館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5 館長は、不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則(平成4年教委規則第7号)

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第6号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年教委規則第5号)

この規則は、平成13年5月1日から施行する。

附 則(平成15年教委規則第9号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年教委規則第20号)

この規則は、平成18年1月1日から施行する。

様式第1号～第8号

(省略)

飯能市郷土館館報 郷土館のプロフィール
第8号

平成24年3月31日発行

発行 飯能市郷土館
〒357-0063 埼玉県飯能市大字飯能258-1
TEL(042)972-1414 FAX(042)972-1431
E-mail:kyodokan@city.hanno.saitama.jp
<http://www.city.hanno.saitama.jp/0000001734.html>

制作 (有)クレバラー・デザインスタジオ
〒357-0044 埼玉県飯能市川寺106-4
TEL(042)974-5260



小さな発見 新たな出会い 大きな喜び



飯能市郷土館

埼玉県飯能市大字飯能258-1

TEL(042)972-1414 FAX(042)972-1431